

第 9 回 山 口 県 地 震 ・ 津 波 防 災 対 策 検 討 委 員 会

令和 8 年 6 月 1 2 日（金）

山口県庁 本館棟 4 階 共用第 2 会議室

次 第

- 1 今後のスケジュールについて 【資料 1】
- 2 県内活断層に係る地震被害想定の見直しについて
(想定地震候補) 【資料 2】
- 3 日本海の地震に係る地震・津波被害想定の見直しについて
(想定地震候補) 【資料 3】

[配布資料]

資料 1 今後のスケジュールについて

資料 2 県内活断層の想定地震候補について

資料 2 関連 想定地震候補の一覧

資料 3 日本海の想定地震候補について

山口県地震・津波防災対策検討委員会 委員名簿

所属・役職	氏名	備考
山口大学 名誉教授	三浦 房紀	会長
山口大学 名誉教授	山本 晴彦	
山口大学 工学部長	鈴木 素之	Web 参加
山口大学大学院創成科学研究科 教授	朝位 孝二	
山口大学大学院創成科学研究科 教授	麻生 稔彦	
山口大学大学院創成科学研究科 教授	太田 岳洋	Web 参加
山口大学大学院創成科学研究科 講師	秋田 知芳	Web 参加
山口大学人文学部 教授	高橋 征仁	Web 参加
山口大学教育学部 准教授	楮原 京子	
下関地方気象台 台長	別府 寿男	
日本防災士会山口県支部 女性部長	坂本 京子	
山陽小野田セーフティネットワーク 会長	岡本 志俊	
下関市総務部防災危機管理課 課長	上部 博範	
山口市総務部防災危機管理課 課長	植村 昇	Web 参加
萩市総務部防災危機管理課 課長	小野 彰彦	
岩国市総務部危機管理課 課長	佐伯 欽三	Web 参加

第 9 回
山口県地震・津波防災対策検討委員会

今後のスケジュールについて

令和 8 年 6 月 12 日

山口県地震・津波被害想定調査の流れ

第9回検討委員会

今後のスケジュールについて（資料1）

県内活断層の想定地震候補について（資料2）

日本海の想定地震候補について（資料3）

第10回検討委員会

県内活断層及び日本海の震度等の推計

日本海の津波高の推計

県内活断層及び日本海の想定地震の決定

第11回検討委員会

県内活断層の被害想定 速報

日本海の浸水予測の進捗報告

啓発資料（骨子）の提示

第12回検討委員会

県内活断層及び日本海の被害想定報告書（案）の提示

報告書概要版（案）の提示

啓発資料（案）の提示

今後のスケジュール

検討委員会	開催日	主な議題
第9回	2026年6月12日	・ 見直し方針（スケジュール）の決定 ・ 県内活断層及び日本海の想定地震候補の決定
第10回	秋頃	・ 県内活断層及び日本海の震度等の推計 ・ 日本海の津波高の推計 ・ 県内活断層及び日本海の想定地震の決定
第11回	秋～冬頃	・ 県内活断層の被害想定 速報 ・ 日本海の浸水予測の進捗報告 ・ 啓発資料（骨子）の提示
第12回		・ 県内活断層及び日本海の被害想定報告書（案）の提示 ・ 報告書概要版（案）の提示 ・ 啓発資料（案）の提示
—	2027年3月	・ 県内活断層被害想定 公表 ・ 日本海被害想定 公表

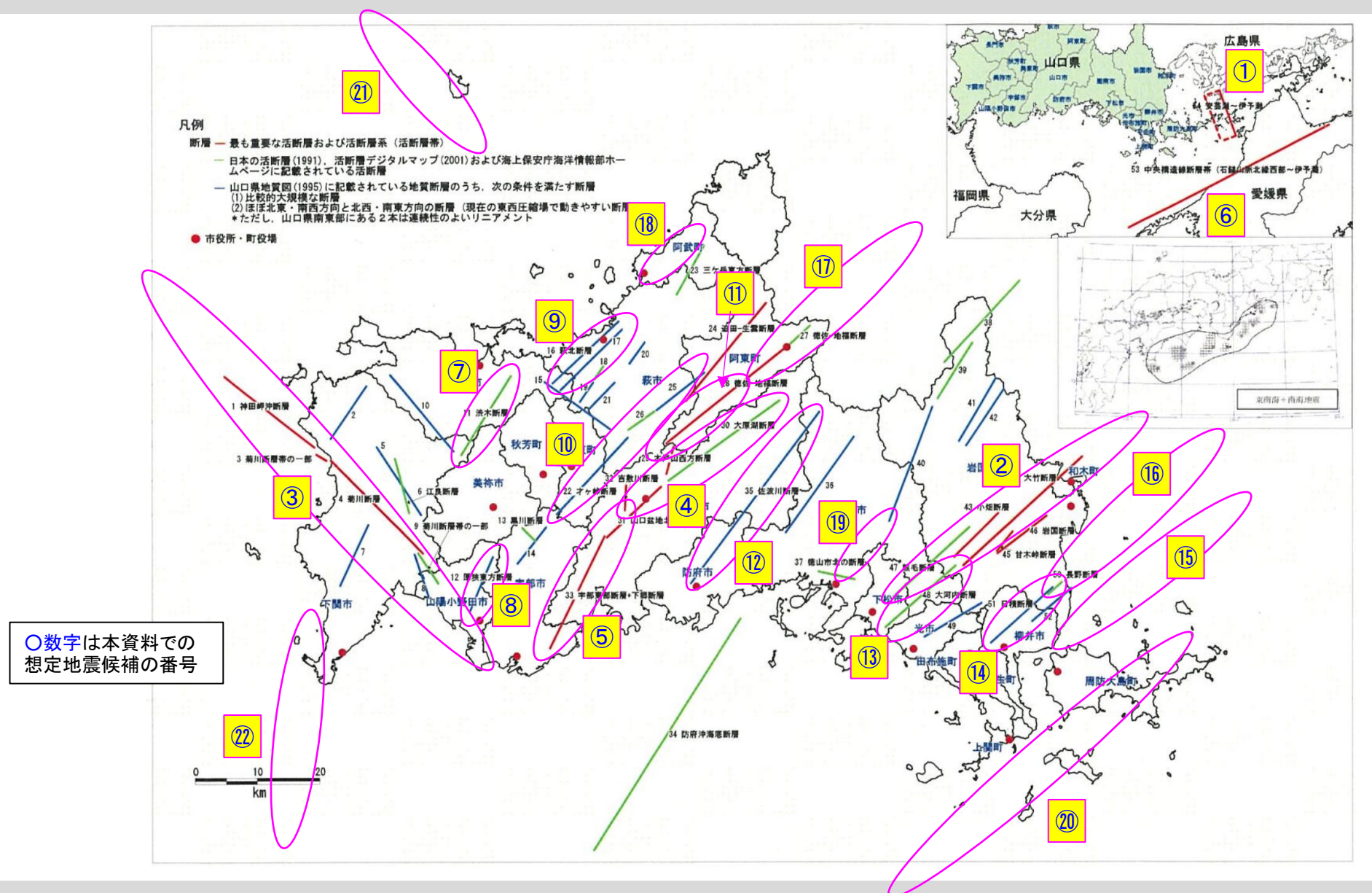
第 9 回

山口県地震・津波防災対策検討委員会

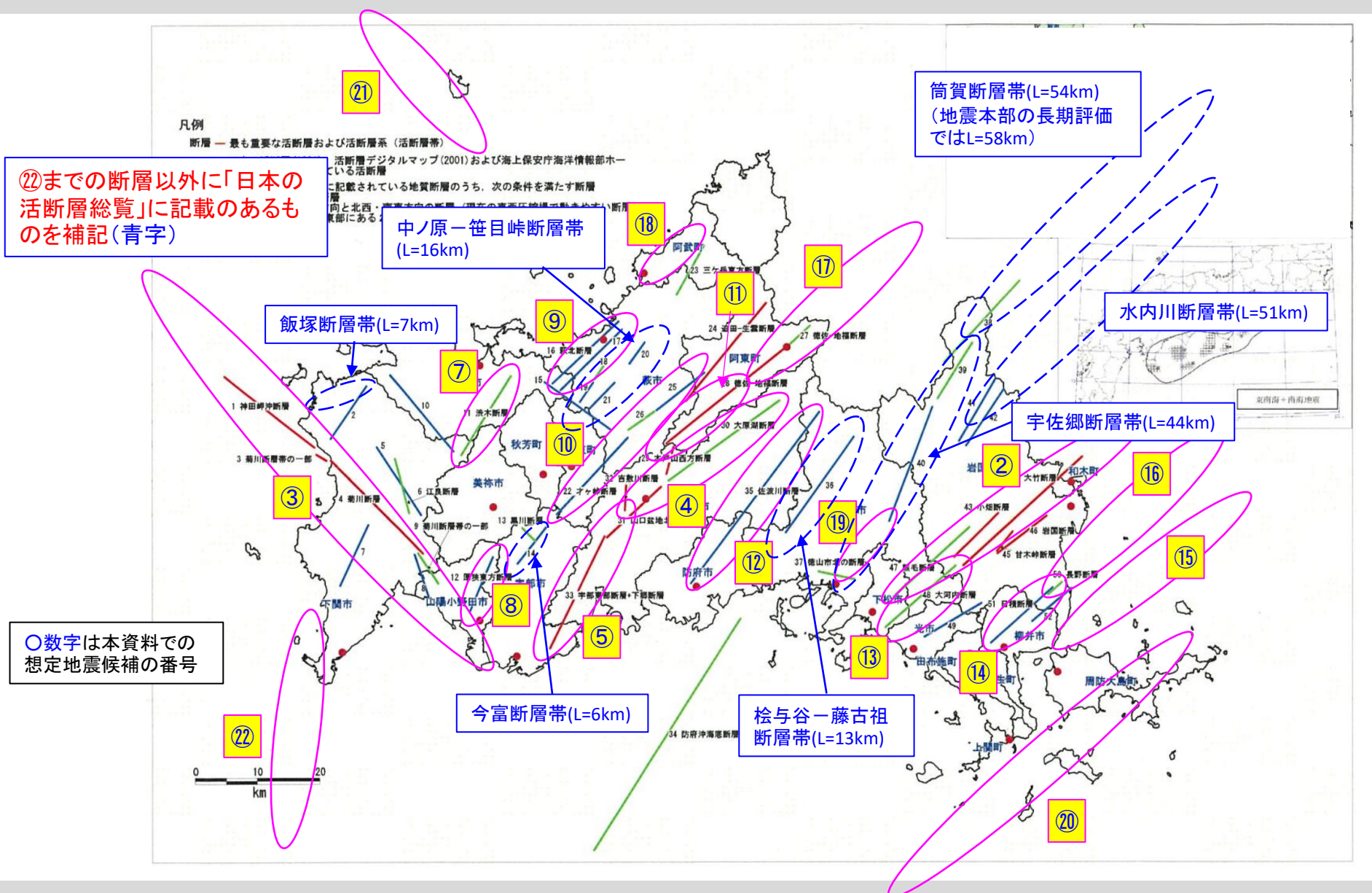
県内活断層の想定地震候補について

令和 8 年 6 月 12 日

山口県内の活断層(前回調査資料に加筆)



山口県内の活断層(前回調査資料に加筆) <前ページの図にさらに補記>



想定地震候補の設定における基本方針(1)

- ① 想定地震候補において、いくつかの区間(断層帯のうちの個々の断層、地表トレースの分割など)に分かれているものについては、基本的に個別に活動するという前提で、区間を分けて設定する。
- ② 一方で、近年は能登半島地震のように複数の断層が連動して発生する地震も確認されている。
- ③ このため、原則としては区間ごとに設定することしつつ、区間が連動する可能性も考慮し、想定に含める。
- ④ さらに、地震調査推進本部の長期評価において断層帯として広域に設定されているものも考慮する。
- ⑤ そのため、地震規模や被害の大きさ、人口密集地への影響等を踏まえ、代表的な断層については、一体として活動する断層として設定したケースも参考として想定する。

想定地震候補の設定における基本方針(2)

⑥⑤における複数ケースを想定する地震については、以下の5地震とする。なお、参考として想定する地震については地表震度分布までを算出する。

- 菊川断層<菊川断層帯(中部区間)> (県西部)
- 大原湖断層系(山口盆地北西縁断層)<大原湖断層> (県中央部)
- 大原湖断層系(宇部東部断層一下郷断層)<小郡断層> (県中央部)
- 大竹断層(小方一小瀬断層)<岩国一五日市断層帯(岩国断層区間)> (県東部)
- 防予諸島沖の海底活断層 (大分県の地震設定を参考)

※ 県北部の代表としては弥栄断層(※弥畝山西断層)を想定する。

①安芸灘～伊予灘の地震

●安芸灘～伊予灘の地震

- ・H20調査：芸予地震(1905)の再来を想定
- ・今回調査：**H20調査と同じ**想定

芸予地震(1905)規模の地震の再来を想定

安芸灘～伊予灘～豊後水道の沈み込んだプレート内のやや深い地震の発生領域
(地震の規模:Mj=6.7～7.4程度)

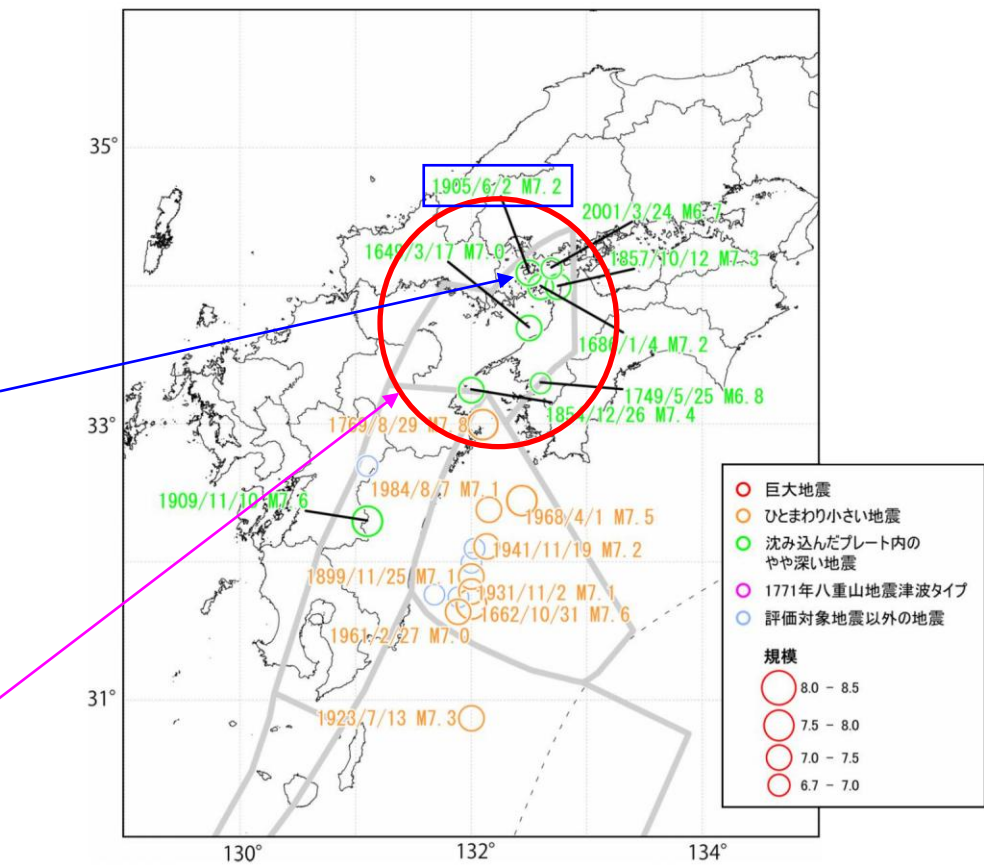


図3-2 日向灘周辺で発生した地震の震央分布
M6.7以上を描画。震央と規模については、1919年より前は宇佐美・他(2013)、宇津(1999)、1919年以降は気象庁震源カタログによる。

「日向灘及び南西諸島海溝周辺の地震活動の長期評価(第二版)」(地震本部2022)に加筆

②-1大竹断層(小方－小瀬断層)

●大竹断層

- ・H20調査：地震本部の「岩国断層帯の長期評価について」のうち大竹断層を対象※
- ・今回調査：**H20調査と同じ想定**

H20調査は新編日本の活断層を参考に設定
(長さ:26km、地震の規模:Mj=7.2)

- 最新の長期評価(2022):
- ・岩国断層区間(長さ:46km、地震の規模:Mj=7.6)
 - ・五日市断層区間(長さ:27km、地震の規模:Mj=7.2)
 - ・己斐断層区間(長さ:23km、地震の規模:Mj=7.1)
 - ・複数区間が同時活動する場合
(長さ:78km、地震の規模:Mj=7.9～8.0程度)

※H20調査時の長期評価は「岩国断層帯の長期評価について」(2004)による。最新の長期評価は「岩国－五日市断層帯の長期評価(2022)⇒2004年の長期評価における活断層位置図は⑬大河内断層参照

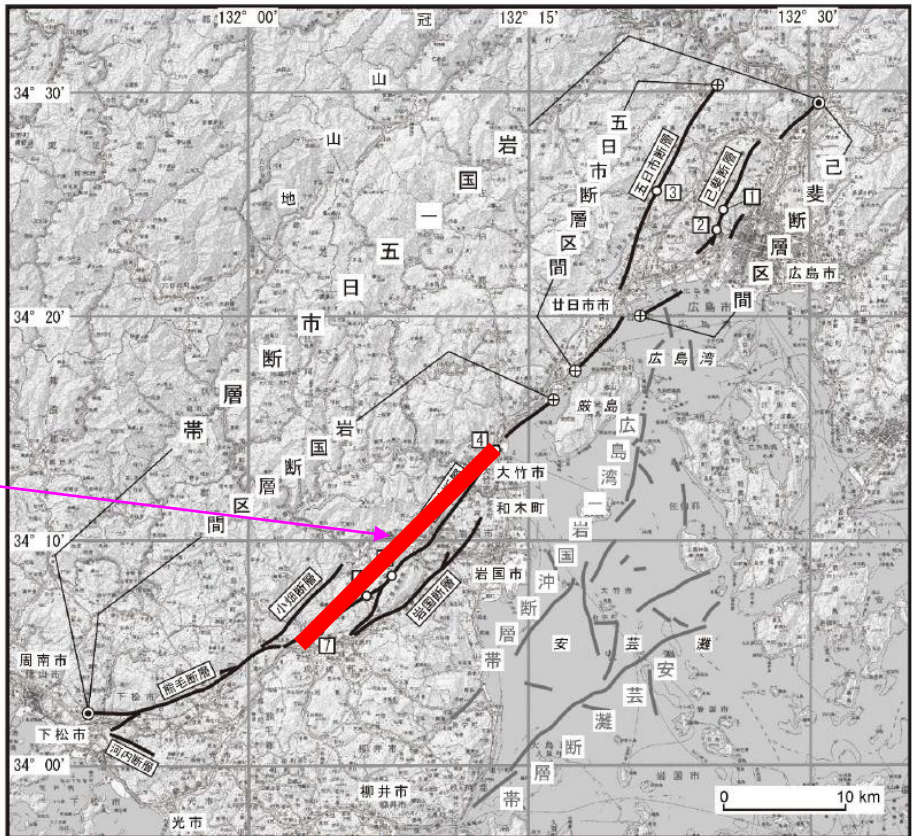


図2 岩国－五日市断層帯の活断層位置と主な調査地点
○トレンチ調査等の調査地点 1：己斐上五丁目地点 2：己斐上二丁目地点 3：五日市地点 4：小方地点 5：近延地点 6：甘木地点 7：臼田地点
●：断層帯の端点 ⊕：活動区間の端点
活断層の位置は文献2、3、4及び5に基づく。
基図は国土地理院発行数値地図 200000 (地図画像)「広島」、「松山」、「山口」、「中津」を使用。

「岩国－五日市断層帯の長期評価」(地震本部2022)に加筆

②-2大竹断層(小方－小瀬断層)<岩国－五日市断層帯(岩国断層区間)>

●大竹断層

- ・H20調査:地震本部の「岩国断層帯の長期評価について」のうち大竹断層を対象※
- ・今回調査:地震本部の「岩国－五日市断層帯の長期評価」のうち岩国断層区間を対象

長期評価の岩国－五日市断層帯の岩国断層区間の特性に基づき設定
(長さ:46km、地震の規模:Mj=7.6)

最新の長期評価(2022):

- ・岩国断層区間(長さ:46km、地震の規模:Mj=7.6)
- ・五日市断層区間(長さ:27km、地震の規模:Mj=7.2)
- ・己斐断層区間(長さ:23km、地震の規模:Mj=7.1)
- ・複数区間が同時活動する場合
(長さ:78km、地震の規模:Mj=7.9～8.0程度)

※H20調査時の長期評価は「岩国断層帯の長期評価について」(2004)による。最新の長期評価は「岩国－五日市断層帯の長期評価(2022)」⇒2004年の長期評価における活断層位置図は⑬大河内断層参照

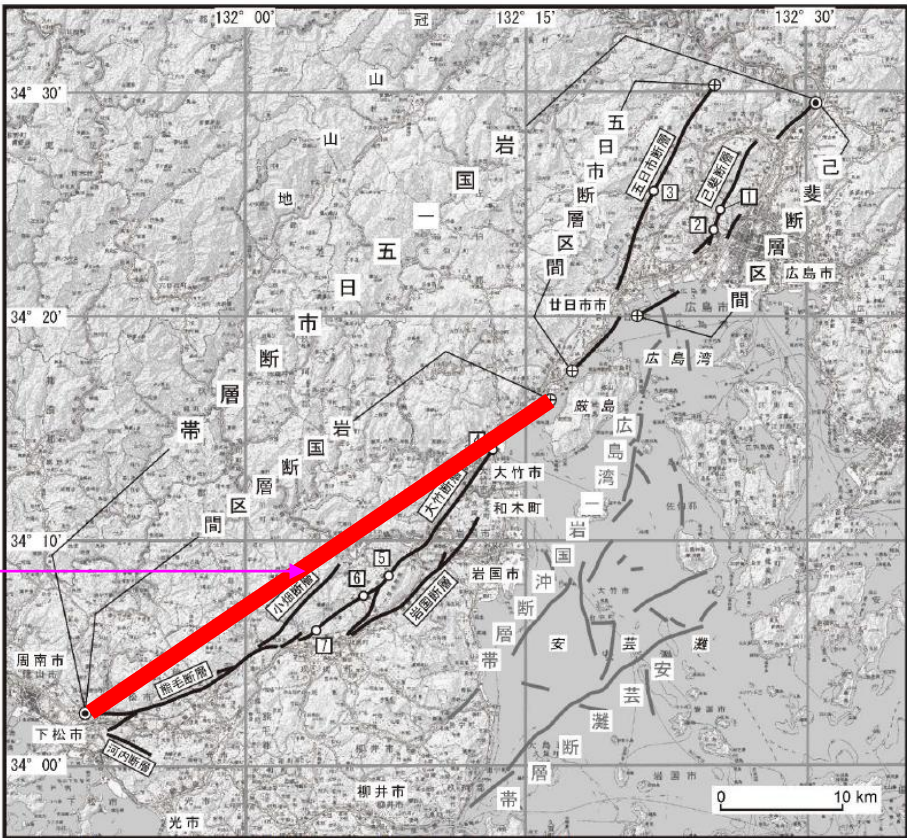


図2 岩国－五日市断層帯の活断層位置と主な調査地点
○トレンチ調査等の調査地点 1:己斐上五丁目地点 2:己斐上二丁目地点 3:五日市地点 4:小方地点 5:近延地点 6:甘木地点 7:臼田地点
●:断層帯の端点 ⊕:活動区間の端点
活断層の位置は文献2、3、4及び5に基づく。
基図は国土地理院発行数値地図 200000 (地図画像)「広島」、「松山」、「山口」、「中津」を使用。

「岩国－五日市断層帯の長期評価」(地震本部2022)に加筆

③-1 菊川断層

● 菊川断層

- ・H20調査：地震本部の「菊川断層帯の長期評価について」のうち菊川断層を対象※
- ・今回調査：**H20調査と同じ**想定

H20調査は新編日本の活断層を参考に設定
(長さ:21km、地震の規模:Mj=7.0)

最新の長期評価(2016):

- ・北部区間(長さ:53km、地震の規模:Mj=7.7)
- ・中部区間(長さ:48km、地震の規模:Mj=7.6)
- ・南部区間(長さ:18kmor以上、地震の規模:Mj=6.9or以上)
- ・複数区間が同時活動する場合)
(長さ:114kmor以上、地震の規模:Mj=7.9~8.2程度or以上)

※H20調査時の長期評価は「菊川断層帯の長期評価について」(2003)。最新の長期評価は「菊川断層帯の長期評価」(2016)

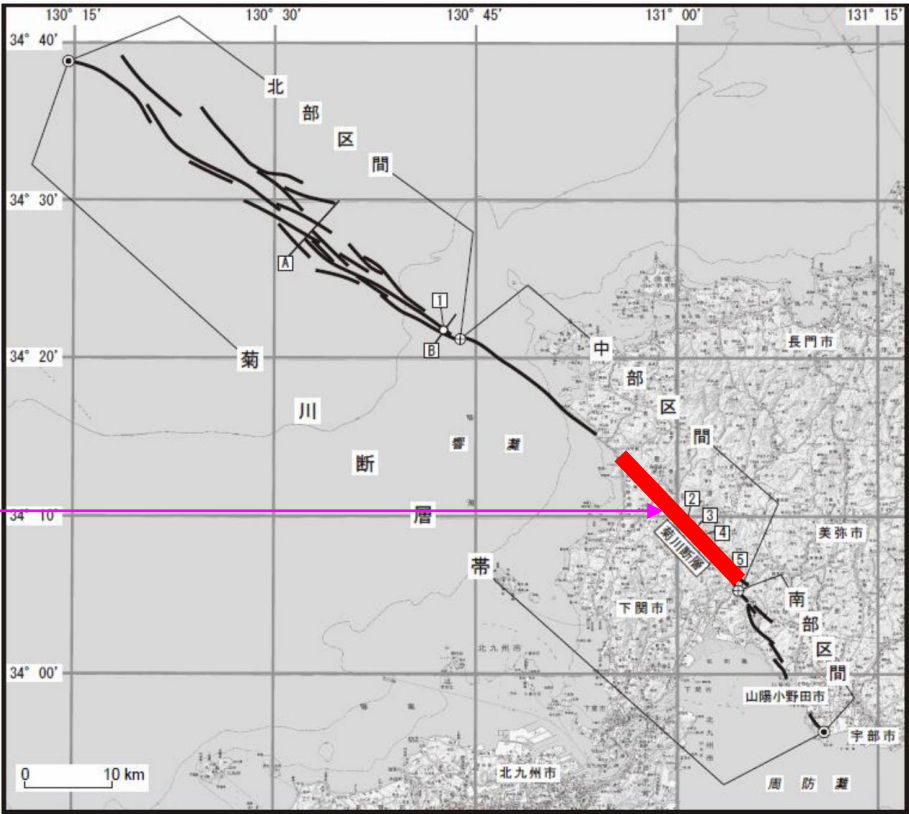


図2 菊川断層帯の活断層位置と主な調査地点
○トレンチ調査等の調査地点 1：阿部ほか(2010)による採泥地点 2：上岡枝地点
3：上岡枝下流地点 4：上諏訪地点 5：下保木地点
A—B：音波探査測線
●：断層帯の端点 ⊕：活動区間の端点
活断層の位置は文献1、2、3及び4に基づく。
基図は国土地理院発行数値地図 200000 (地図画像)「山口」、「中津」、「小串」、「福岡」を使用。

「菊川断層帯の長期評価」(地震本部2016)に加筆

③-2 菊川断層帯<菊川断層帯(中部区間)>

● 菊川断層

- ・H20調査:地震本部の「菊川断層帯の長期評価について」のうち菊川断層を対象※
- ・今回調査:地震本部の「菊川断層帯の長期評価」のうち中部区間を対象

長期評価の菊川断層帯の中部区間の特性に基づき設定
(長さ:48km、地震の規模:Mj=7.6)

最新の長期評価(2016):

- ・北部区間(長さ:53km、地震の規模:Mj=7.7)
- ・中部区間(長さ:48km、地震の規模:Mj=7.6)
- ・南部区間(長さ:18kmor以上、地震の規模:Mj=6.9or以上)
- ・複数区間が同時活動する場合)
(長さ:114kmor以上、地震の規模:Mj=7.9~8.2程度or以上)

※H20調査時の長期評価は「菊川断層帯の長期評価について」(2003)。最新の長期評価は「菊川断層帯の長期評価」(2016)

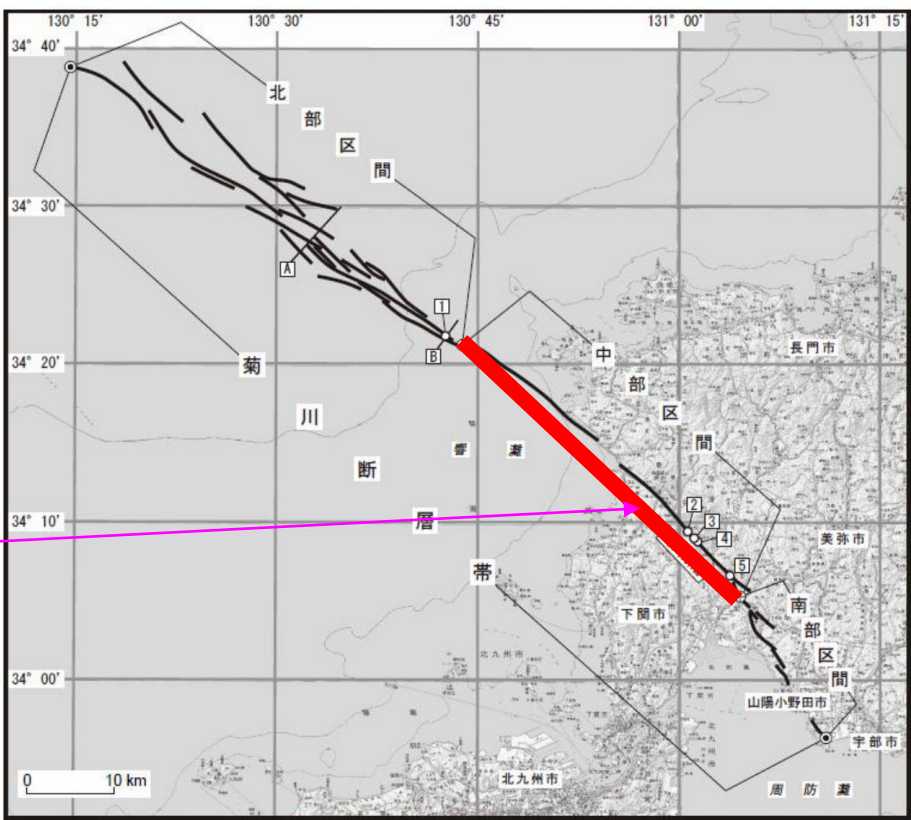


図2 菊川断層帯の活断層位置と主な調査地点
○トレンチ調査等の調査地点 1:阿部ほか(2010)による採泥地点 2:上岡枝地点
3:上岡枝下流地点 4:上諏訪地点 5:下保木地点
A—B:音波探査測線
●:断層帯の端点 ⊕:活動区間の端点
活断層の位置は文献1、2、3及び4に基づく。
基図は国土地理院発行数値地図 200000 (地図画像)「山口」、「中津」、「小串」、「福岡」を使用。

「菊川断層帯の長期評価」(地震本部2016)に加筆

④-1大原湖断層系(山口盆地北西縁断層)

●大原湖断層帯系 (山口盆地北西縁断層)

- ・H20調査:「山口県の活断層」により想定
- ・今回調査: **H20調査と同じ**想定

山口県の活断層に基づき設定
(長さ: 12km、地震の規模: Mj=6.6)

表 3-3 『大原湖断層系』を構成する断層

断層名	走向	長さ (km)	平均鉛直 変位速度※1 (m/千年)	横ずれ 変位※2 (M)	最新活動時期	活動間隔
大原湖	ENE	22	—	—	約 3,200 年以前	
木戸山西方	NE ~ NNE	4.5+	0.01	90	約 3,500 年以降	24,000 年以上
山口盆地北西縁	ENE	12	0.075	—	後期更新世以降	
吉敷川	N-S	4	—	—	高位段丘堆積物堆積後	
下郷	NNE	9	—	50~100	3,500 年~4,500 年前	21,000 年程度
宇部東部	NNE	11	—	—	11,500 年~400 年前	
仁保川	NE	10	—	—	不明	

* 出典 金折 裕司, 山口県の活断層, 2005

最新の長期評価(2016):
・大原湖断層(長さ: 42km、地震の規模: Mj=7.5)

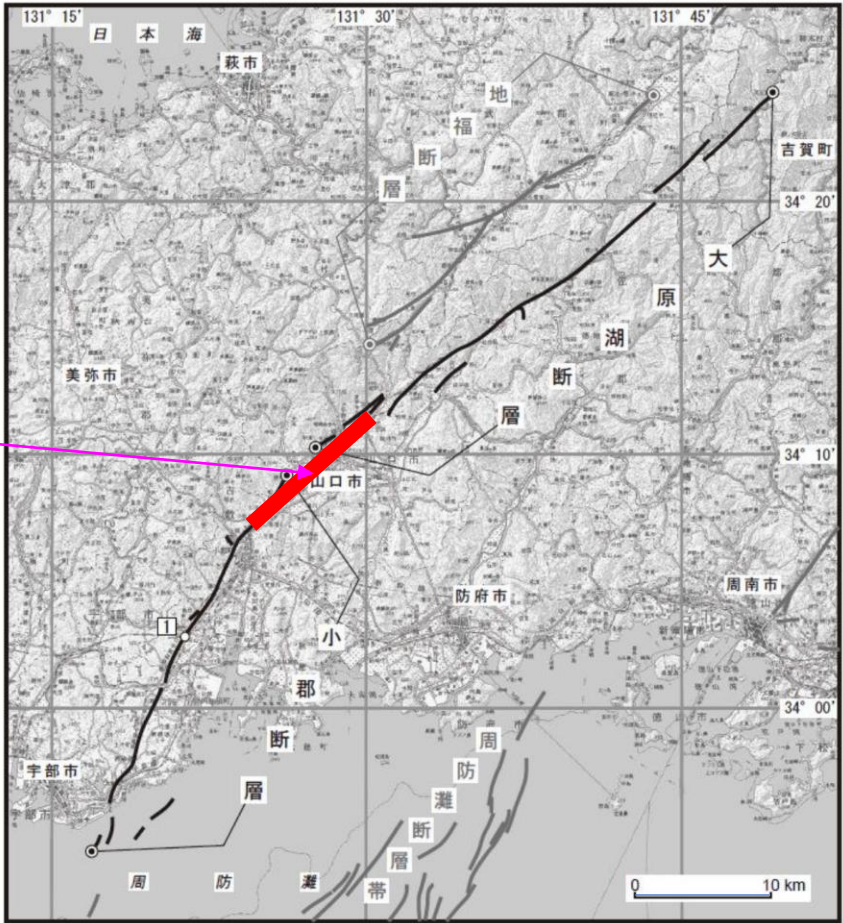


図1 大原湖断層・小郡断層の位置

●: 断層の端点 1: 佐山地点
基図は国土地理院発行数値地図 200000 「山口、中津」

「大原湖断層・小郡断層の長期評価」(地震本部2016)に加筆

④-2大原湖断層系(山口盆地北西縁断層)＜大原湖断層＞

●大原湖断層帯系 (山口盆地北西縁断層)

- ・H20調査:「山口県の活断層」により想定
- ・今回調査:地震本部の「大原湖断層・小郡断層の長期評価」のうち大原湖断層、及び山口盆地北西縁断層を対象

山口県の活断層、及び長期評価の断層位置に基づき設定
(長さ:49km、地震の規模:Mj=7.7)

最新の長期評価(2016):
・大原湖断層(長さ:42km、地震の規模:Mj=7.5)
・小郡断層(長さ:31km、地震の規模:Mj=7.3)

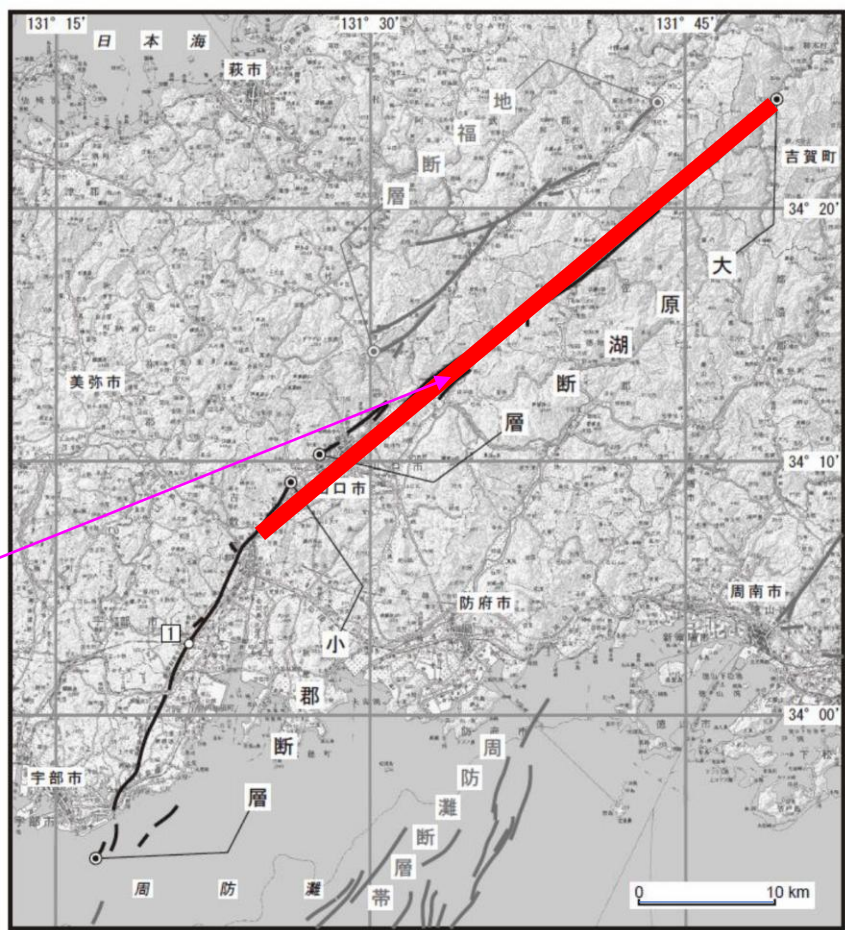


図1 大原湖断層・小郡断層の位置
●:断層の端点 1:佐山地点
基図は国土地理院発行数値地図 200000「山口、中津」

「大原湖断層・小郡断層の長期評価」(地震本部2016)に加筆

⑤-1大原湖断層系(宇部東部断層一下郷断層)

●大原湖断層帯系 (宇部東部断層一下郷断層)

- ・H20調査:「山口県の活断層」により想定
- ・今回調査: **H20調査と同じ想定**

山口県の活断層に基づき設定
(長さ: 20km、地震の規模: Mj=7.0)

表 3-3 『大原湖断層系』を構成する断層

断層名	走向	長さ (km)	平均鉛直 変位速度※1 (m/千年)	横ずれ 変位※2 (M)	最新活動時期	活動間隔
大原湖	ENE	22	—	—	約 3,200 年以前	
木戸山西方	NE ~ NNE	4.5+	0.01	90	約 3,500 年以降	24,000 年以上
山口盆地北西縁	ENE	12	0.075	—	後期更新世以降	
吉敷川	N-S	4	—	—	高位段丘堆積物堆積後	
下郷	NNE	9	—	50~100	3,500 年~4,500 年前	21,000 年程度
宇部東部	NNE	11	—	—	11,500 年~400 年前	
仁保川	NE	10	—	—	不明	

* 出典 金折 裕司, 山口県の活断層, 2005

最新の長期評価(2016):
・小郡断層(長さ: 31km、地震の規模: Mj=7.3)

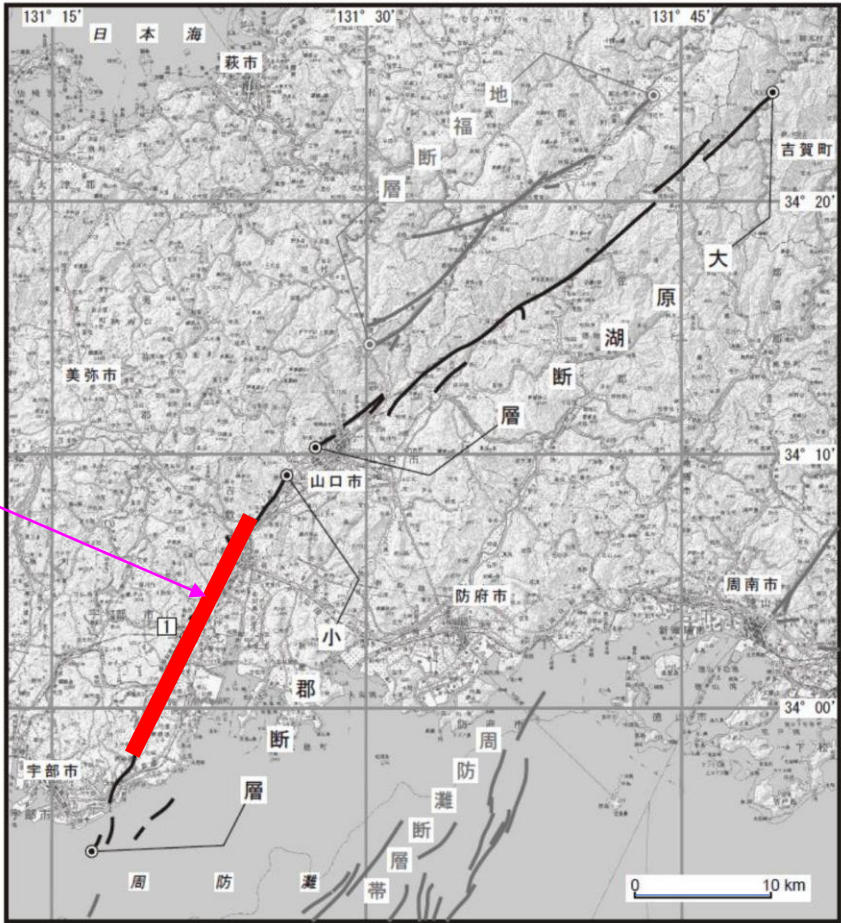


図1 大原湖断層・小郡断層の位置

●: 断層の端点 1: 佐山地点
基図は国土地理院発行数値地図 200000 「山口、中津」

「大原湖断層・小郡断層の長期評価」(地震本部2016)に加筆

⑤-2大原湖断層系(宇部東部断層一下郷断層)＜小郡断層＞

●大原湖断層帯系 (宇部東部断層一下郷断層)

- ・H20調査:「山口県の活断層」により想定
- ・今回調査:地震本部の「大原湖断層・小郡断層の長期評価」のうち小郡断層、及び山口盆地北西縁断層を対象

山口県の活断層、及び長期評価の断層位置に基づき設定
(長さ:40km、地震の規模:Mj=7.5)

最新の長期評価(2016):
・大原湖断層(長さ:42km、地震の規模:Mj=7.5)
・小郡断層(長さ:31km、地震の規模:Mj=7.3)

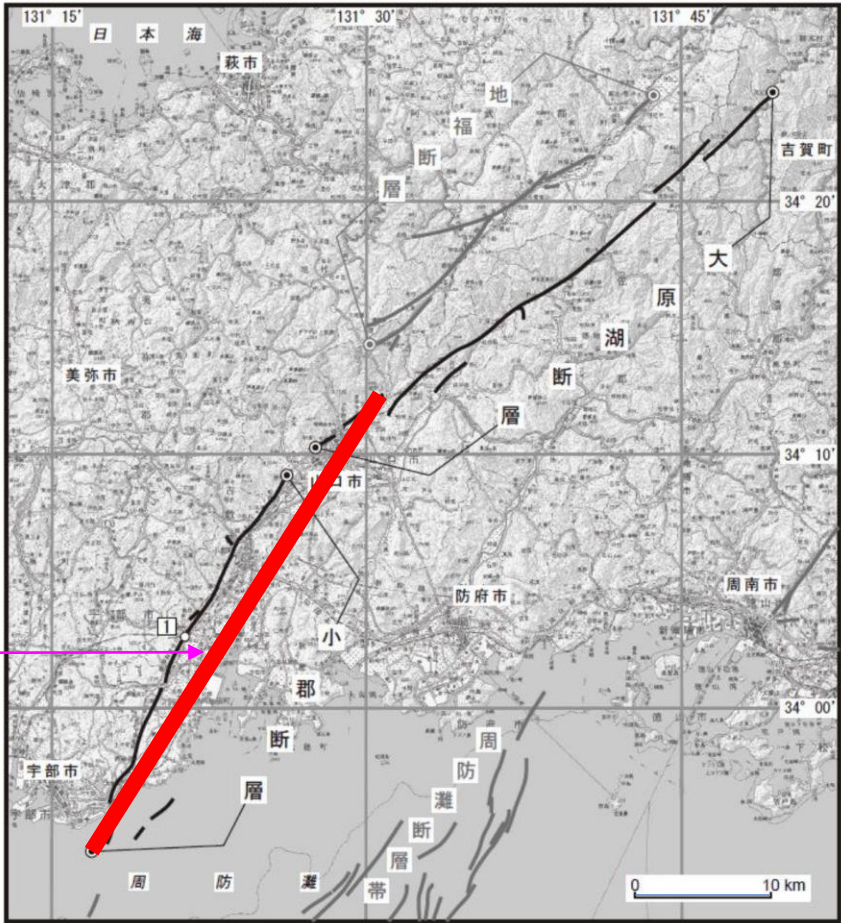


図1 大原湖断層・小郡断層の位置
●: 断層の端点 1: 佐山地点
基図は国土地理院発行数値地図 200000 「山口、中津」

「大原湖断層・小郡断層の長期評価」(地震本部2016)に加筆

⑥中央構造線断層帯(石鎚山脈北縁西部～伊予灘)

●中央構造線断層帯(石鎚山脈北縁西部～伊予灘)

- ・H20調査:地震本部の「中央構造線断層帯(金剛山地東縁ー伊予灘)の長期評価について」のうち石鎚山脈北縁西部ー伊予灘区間を対象※
- ・今回調査:最新の地震本部の「中央構造線断層帯(金剛山地東縁ー由布院)の長期評価(第二版)」のうち、**石鎚山脈北縁西部区間と伊予灘区間を対象**

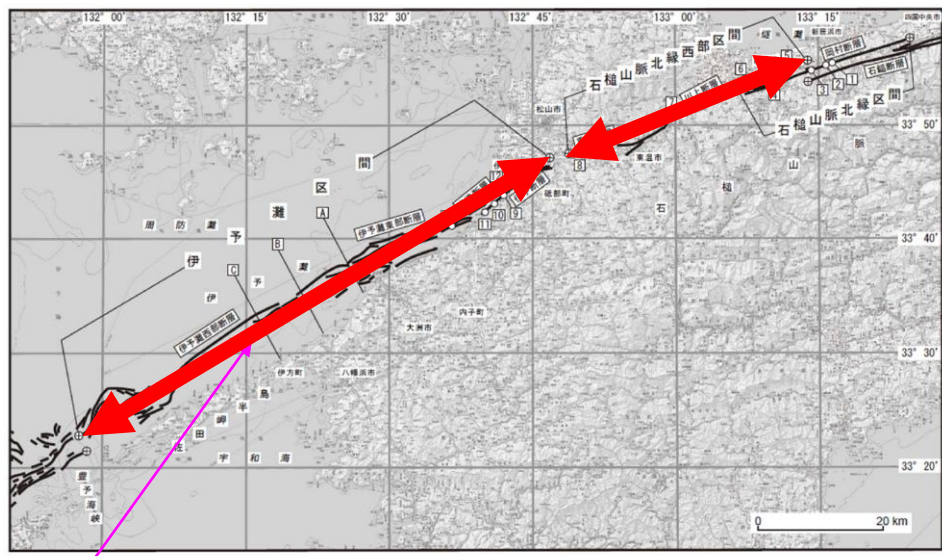


図2-3 中央構造線断層帯の活断層位置と主な調査地点

1 萩生地点、2 岸ノ下地点、3 飯岡地点、4 洲之内地点、5 横黒地点、6 永見地点・土居地点、7 臼坂地点、8 高井東地点・高井地点・高井西地点、9 市場地点、10 三秋地点、11 高野川地点、12 本郡地点、13 上灘沖地点
A～C: 文献 39
活断層の位置は文献 1、5、7、26、28、29、61 に基づく。
基図は国土地理院発行数値地図 200000 「徳島」「剣山」「岡山及丸亀」「高知」「広島」及び「松山」を使用。

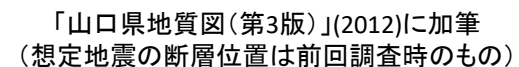
石鎚山脈北縁西部区間と伊予灘区間が連動した場合を想定

- ・石鎚山脈北縁西部区間
(長さ:41km、地震の規模:Mj=7.5)
- ・伊予灘区間
(長さ:88km、地震の規模:Mj=8.0もしくはそれ以上)

「中央構造線断層帯(金剛山地東縁ー由布院)の長期評価(第二版)」
(地震本部2017)に加筆

● 渋谷断層

- 「新編日本の活断層」を参考に設定
(長さ:15km、地震の規模:Mj=6.8)

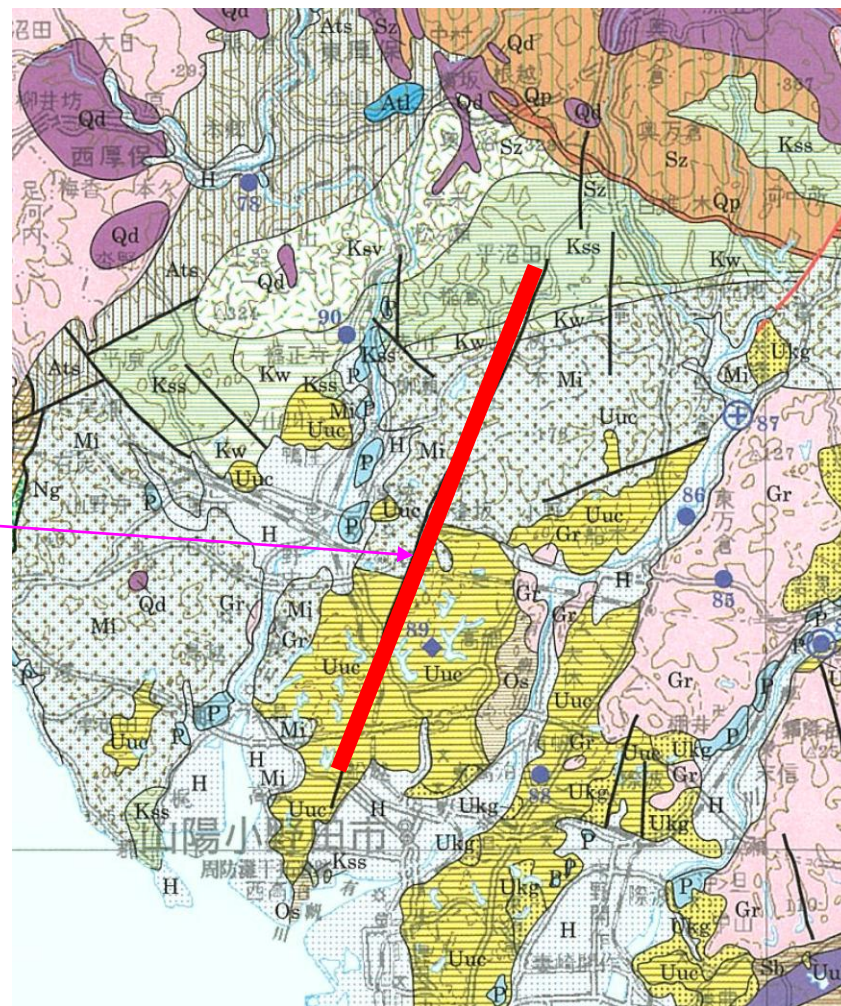


⑧厚狭東方断層

●厚狭東方断層

- ・H20調査:「山口県地質図」により想定
- ・今回調査: **H20調査と同じ**設定

「山口県地質図」を参考に設定
(長さ:9.4km、地震の規模:Mj=6.5)



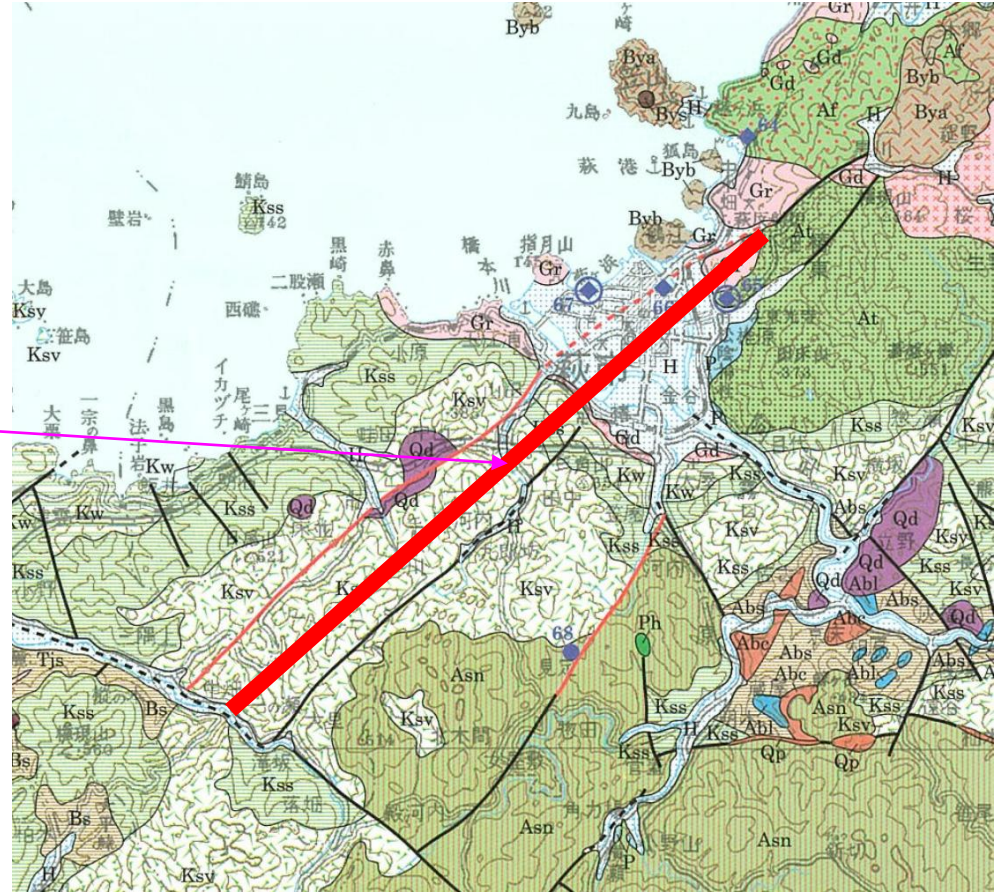
「山口県地質図(第3版)」(2012)に加筆
(想定地震の断層位置は前回調査時のもの)

⑨萩北断層

●萩北断層

- ・H20調査: 「山口県地質図」により想定
- ・今回調査: **H20調査と同じ**設定

「山口県地質図」を参考に設定
(長さ:14.6km、地震の規模:Mj=6.8)



「山口県地質図(第3版)」(2012)に加筆
(想定地震の断層位置は前回調査時のもの)

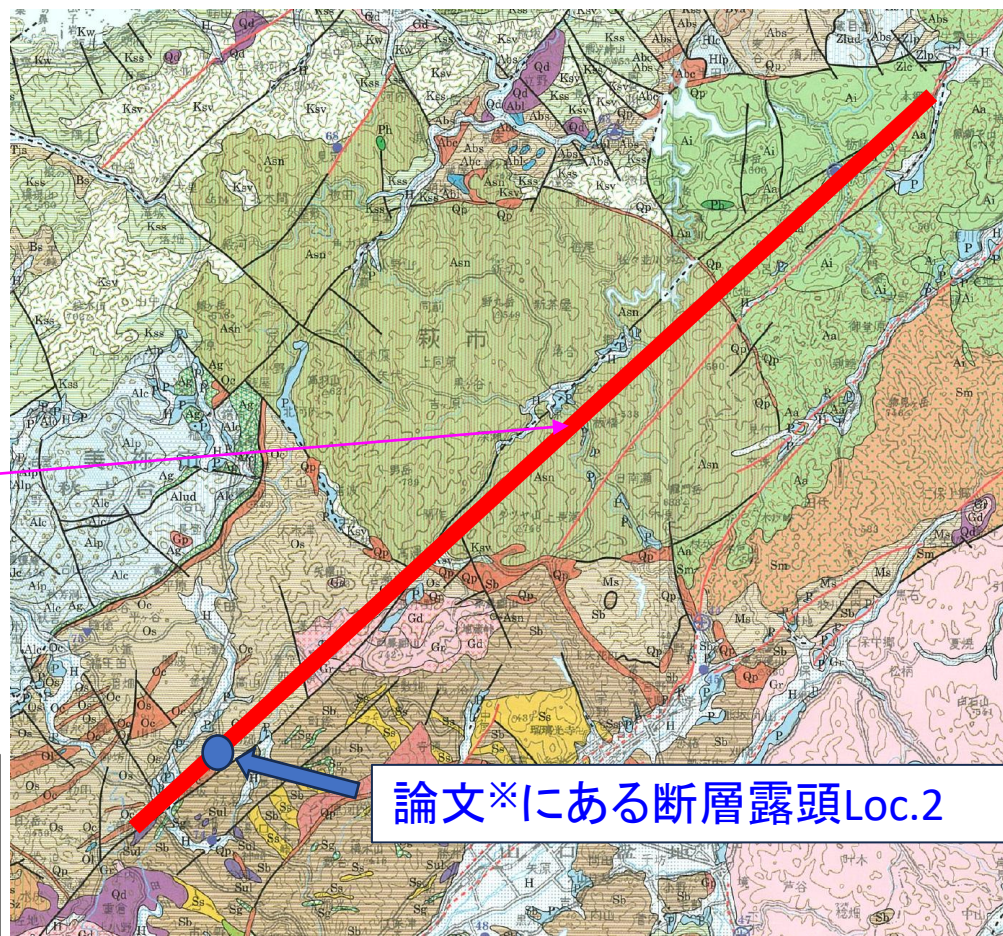
⑩才ヶ峠断層

●才ヶ峠断層

- ・H20調査:「山口県地質図」により想定
- ・今回調査: H20調査に、**北側への延長を考慮し設定**

「山口県地質図(第3版)」を参考に設定
(長さ:34km、地震の規模:Mj=7.4)
H20調査の想定断層から北側へ延長
(H20調査:長さ:16.8km、地震の規模:
Mj=6.9)

- ・論文※にある断層長さ20kmという記述は、断層露頭位置を含む構造線を表現していると考えられる。
- ・Loc.2は元の想定断層線の南端に近い箇所である(図中青●)。
- ・そのため、延長部が20kmという記述は避け、活断層図から読み取った数値を採用した。



「山口県地質図(第3版)」(2012)に加筆
(想定地震の断層位置は前回調査時のもの)

※田村・金折(2017):山口県南西部、才ヶ峠構造線に関連した活断層露頭. 応用地質,58.290-296

⑪徳佐一地福断層

●徳佐一地福断層

- ・H20調査：「山口県の活断層」等により
想定
- ・今回調査：**H20調査と同じ**設定
(※最新の長期評価は長さが若干異なる)

「山口県の活断層」「山口県地質図」を
参考に設定
(長さ:25.1km、地震の規模:Mj=7.2)

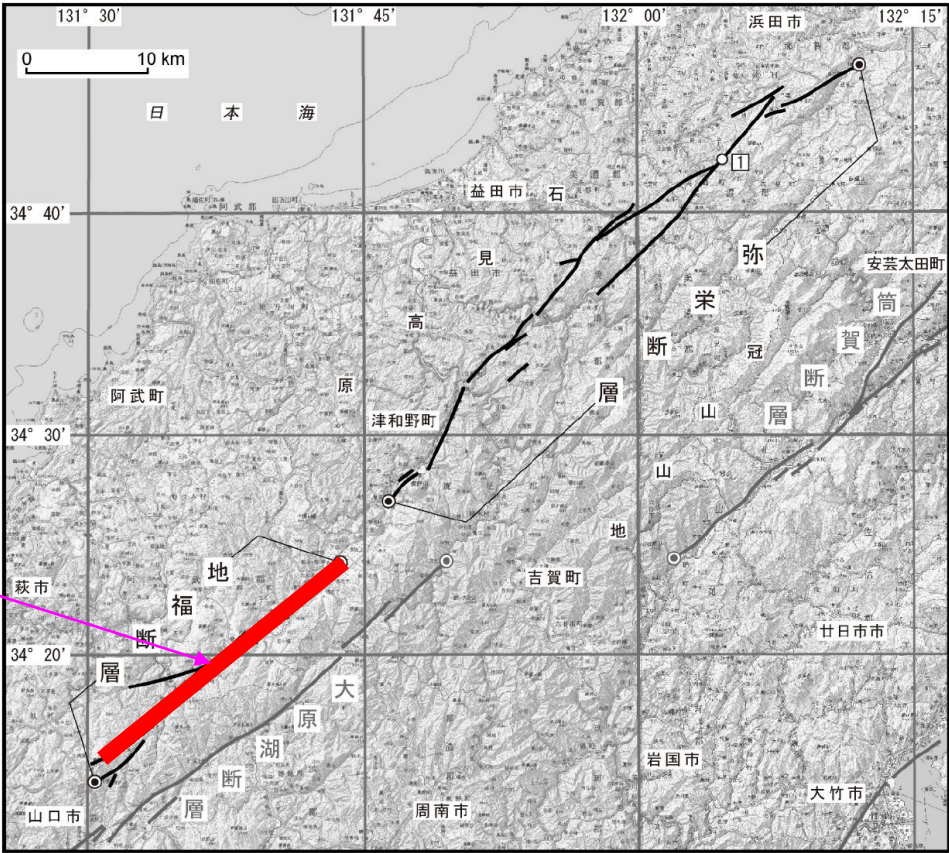


図1 弥栄断層・地福断層の位置

●：断層の端点 1：田野原地点

基図は国土地理院発行数値地図 200000 「広島」、「浜田」、「山口」、「見島」

「弥栄断層・地福断層の長期評価」(地震本部2016)に加筆

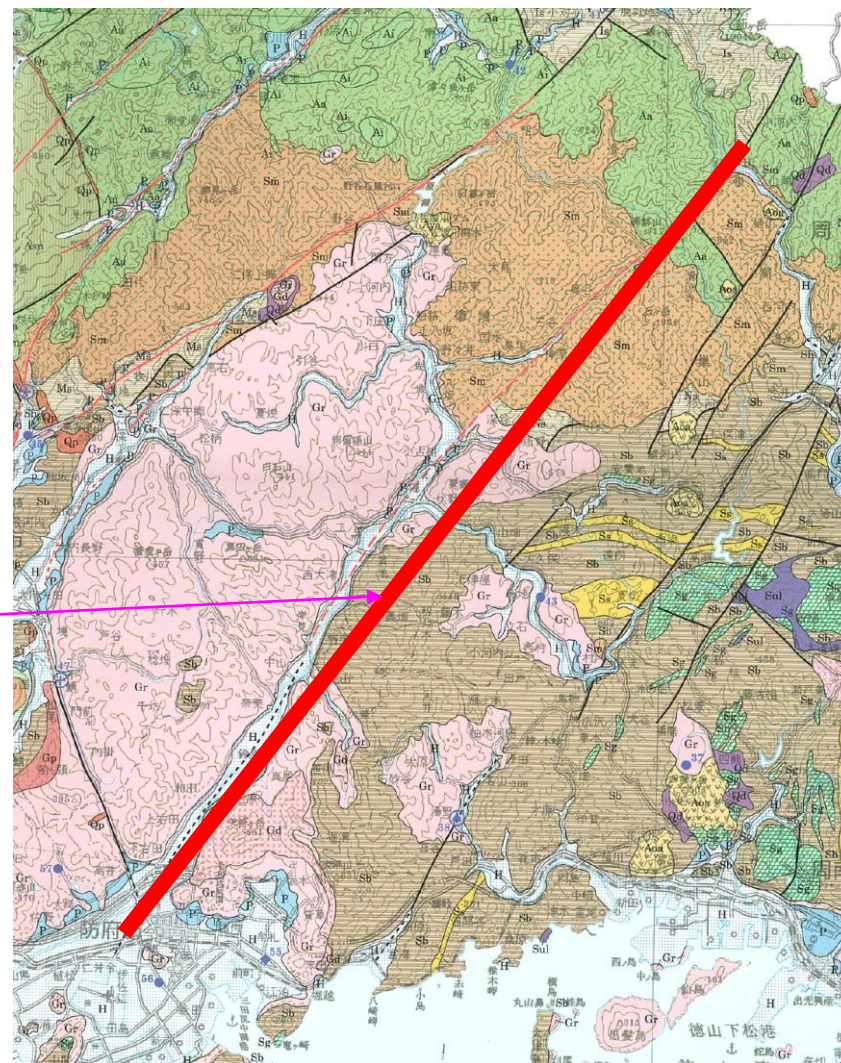
※最新の長期評価(2016):
・地福断層(長さ:27km、地震の規模:Mj=7.2)

⑫佐波川断層

●佐波川断層

- ・H20調査: 「山口県地質図」により想定
- ・今回調査: **H20調査と同じ**設定

「山口県地質図」を参考に設定
(長さ: 34.4km、地震の規模: $M_j=7.4$)



「山口県地質図(第3版)」(2012)に加筆
(想定地震の断層位置は前回調査時のもの)

⑬大河内断層

●大河内断層

- ・H20調査：地震本部の「岩国断層帯の長期評価について」に記載の大河内断層を対象※
- ・今回調査：**H20調査と同じ想定**

H20調査は新編日本の活断層を参考に設定
(長さ:15.1km、地震の規模:Mj=6.8)

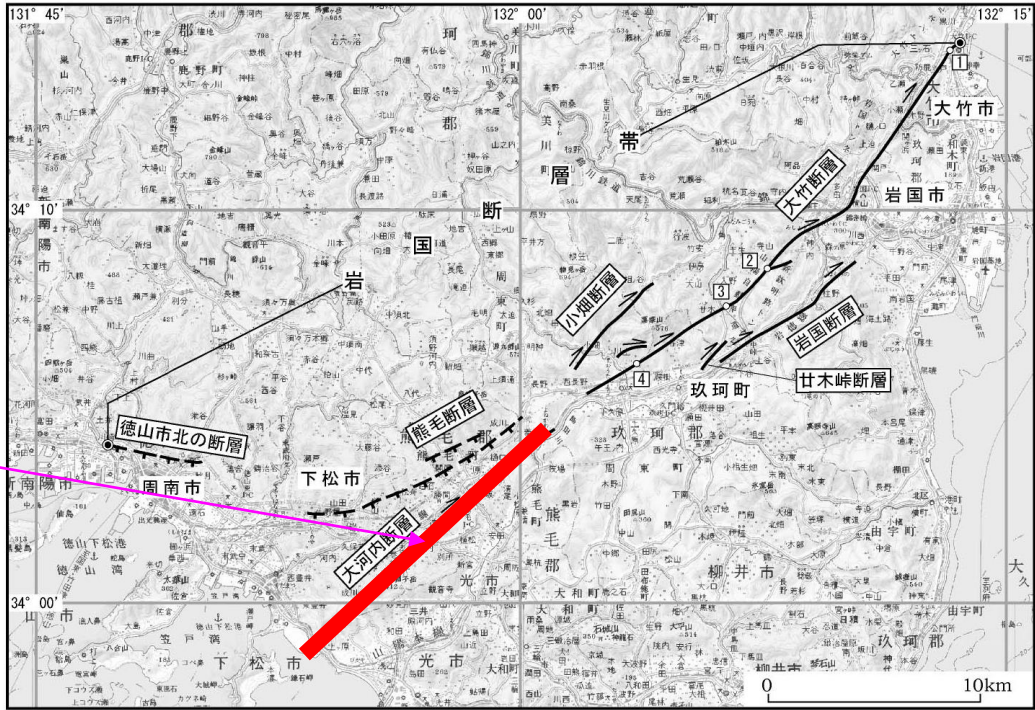


図2 岩国断層帯の活断層位置と主な調査地点
1：小方地点 2：近延地点 3：甘木地点 4：日田地点
●：断層帯の北東端と南西端
活断層の位置は文献2、3及び4に基づく。
基図は国土地理院発行数値地図200000「広島」「松山」「山口」「中津」を使用。

※最新の「岩国－五日市断層帯の長期評価」(2016)においては、大河内断層は長期評価に係る構成断層として、記載されていない⇒②大竹断層参照

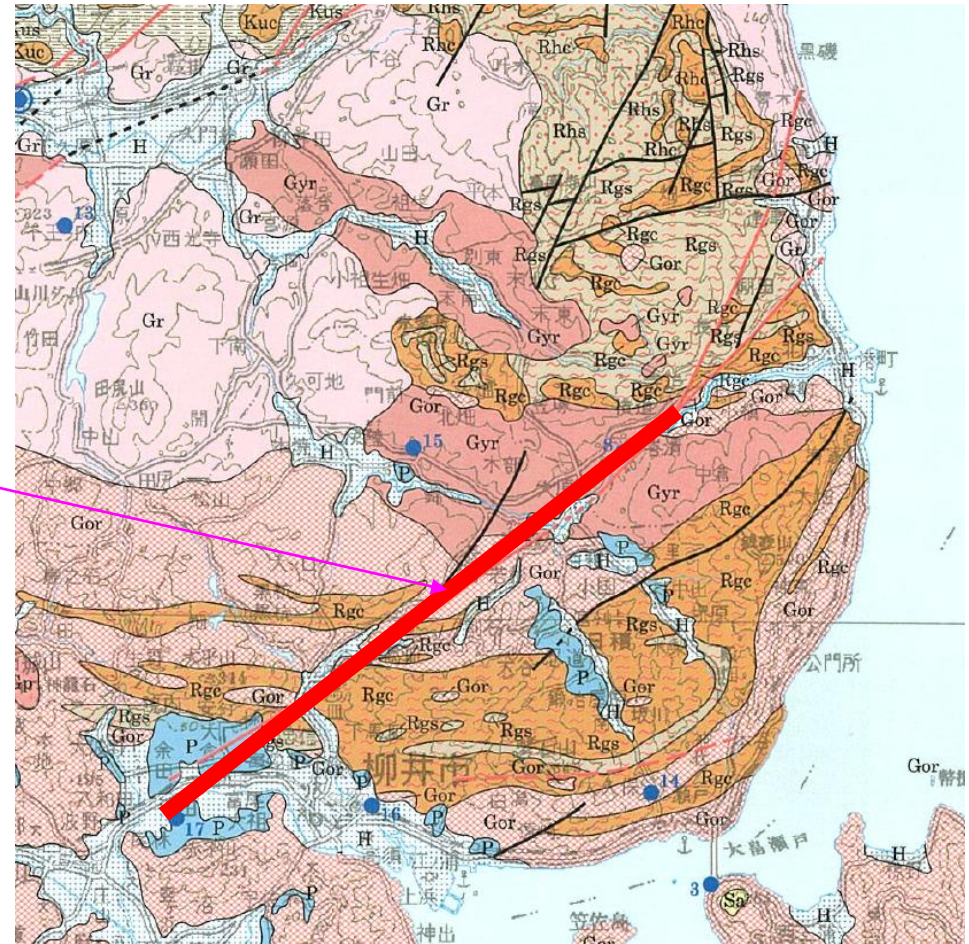
「岩国断層帯の長期評価について」(地震本部2004)に加筆

⑭日積断層

●日積断層

- ・H20調査: 「山口県地質図」により想定
- ・今回調査: **H20調査と同じ**設定

「山口県地質図」を参考に設定
(長さ: 13.4km、地震の規模: Mj=6.7)



「山口県地質図(第3版)」(2012)に加筆
(想定地震の断層位置は前回調査時のもの)

⑮安芸灘断層帯

●安芸灘断層帯

- ・H20調査：想定なし
- ・今回調査：地震本部の「安芸灘断層帯・広島湾－岩国冲断層帯の長期評価」のうち、**安芸灘断層帯を対象**

長期評価の断層の特性に基づき設定
(長さ:26km、地震の規模:Mj=7.2)

「安芸灘断層帯・広島湾－岩国冲断層帯の長期評価」
(地震本部2016)に加筆

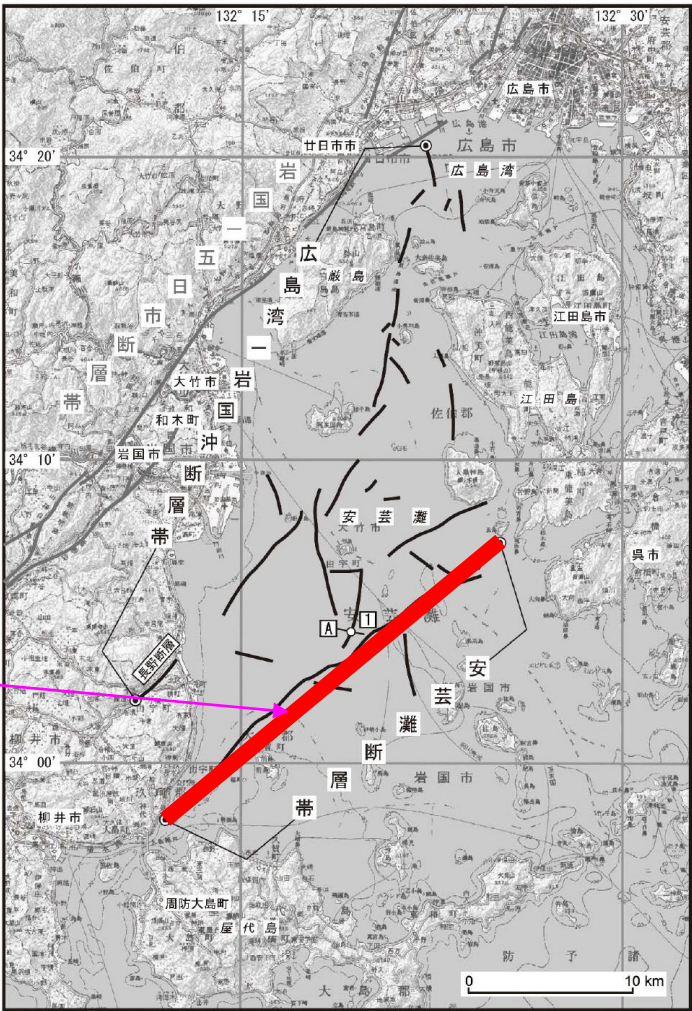


図2 安芸灘断層帯・広島湾－岩国冲断層帯の位置と主な調査地点
1：文献3による採泥地点 A：文献3による音波探査測線
●：断層帯の端点
活断層の位置は文献2、3、4、5及び6に基づく。
基図は国土地理院発行数値地図 200000（地図画像）「広島」、「松山」を使用。

⑬広島湾－岩国沖断層帯

●広島湾－岩国沖断層帯

- ・H20調査：想定なし
- ・今回調査：地震本部の「安芸灘断層帯・広島湾－岩国沖断層帯の長期評価」のうち、**広島湾－岩国沖断層帯を対象**

長期評価の断層の特性に基づき設定
(長さ:38km、地震の規模:Mj=7.5)

「安芸灘断層帯・広島湾－岩国沖断層帯の長期評価」
(地震本部2016)に加筆

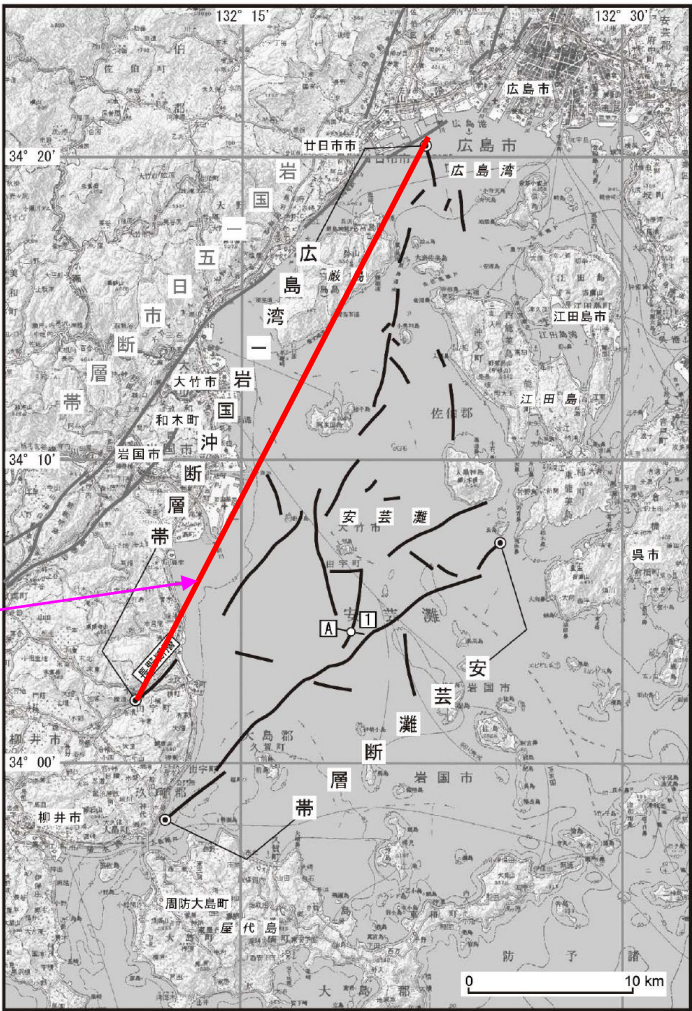


図2 安芸灘断層帯・広島湾－岩国沖断層帯の位置と主な調査地点
1：文献3による採泥地点 A：文献3による音波探査測線
●：断層帯の端点
活断層の位置は文献2、3、4、5及び6に基づく。
基図は国土地理院発行数値地図 200000（地図画像）「広島」、「松山」を使用。

⑰弥栄断層(※弥畝山西断層)

●弥栄断層(※弥畝山西断層)

・H20調査: 想定なし

・今回調査: 地震本部の「弥栄断層・地福断層の長期評価」のうち、**弥栄断層の南側区間を対象**

長期評価の弥栄断層を断層線の屈曲に合わせて**2つの区間に分けて設定し、その南側区間を対象とする。**

・南側区間
(長さ: 39km、地震の規模: $M_j=7.5$)

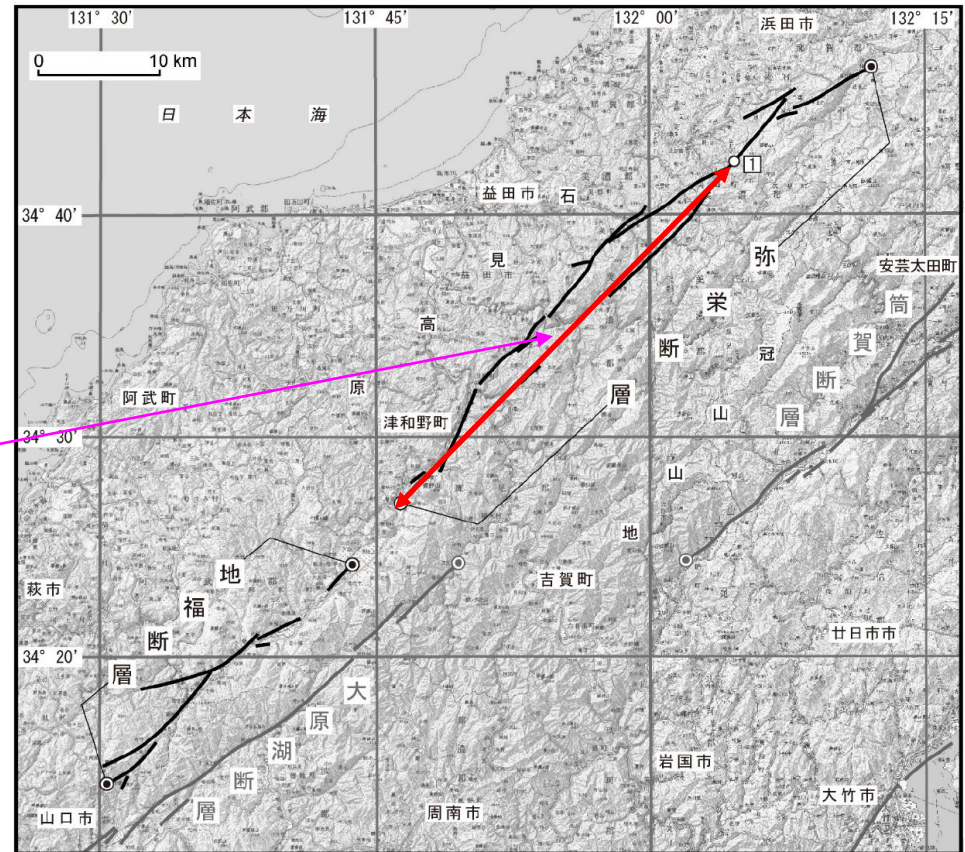


図1 弥栄断層・地福断層の位置

●: 断層の端点 1: 田野原地点

基図は国土地理院発行数値地図 200000 「広島」、「浜田」、「山口」、「見島」

「弥栄断層・地福断層の長期評価」(地震本部2016)に加筆

⑱奈古断層(※河内断層)

●奈古断層(※河内断層)

- ・H20調査: 想定なし
- ・今回調査: 地震本部の「奈古断層」を対象

長期評価の断層の特性に基づき設定
(長さ: 13km、地震の規模: Mj=6.7)

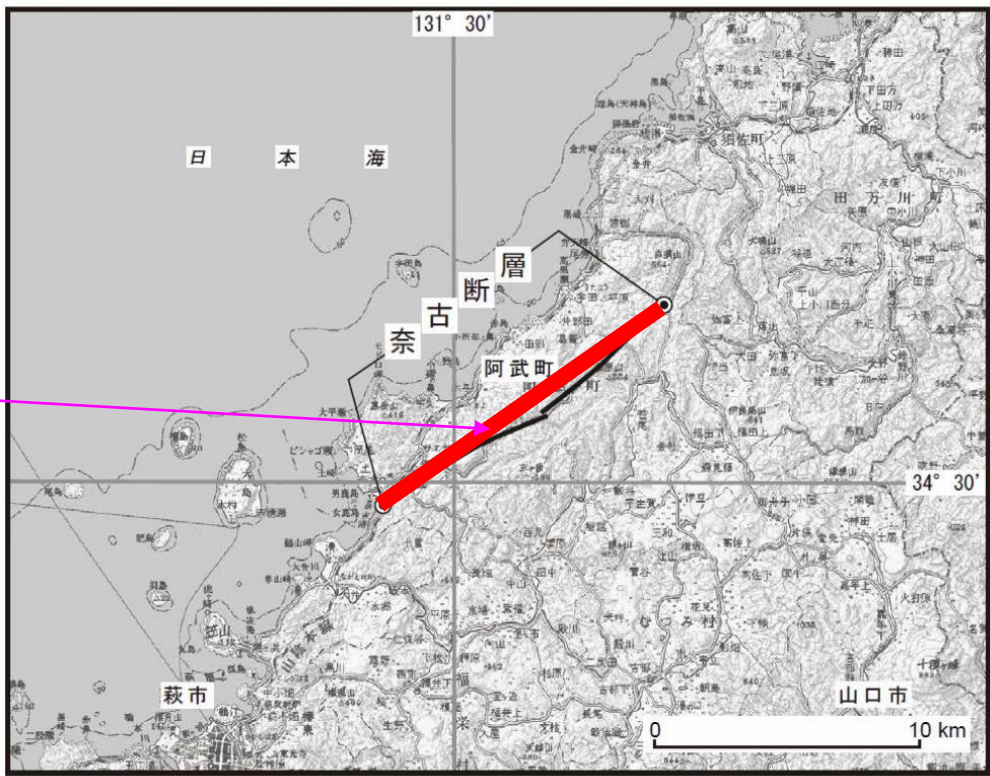


図 1 奈古断層の位置

● : 断層の端点

基図は国土地理院発行数値地図 200000「山口」

「奈古断層の長期評価」(地震本部2016)に加筆

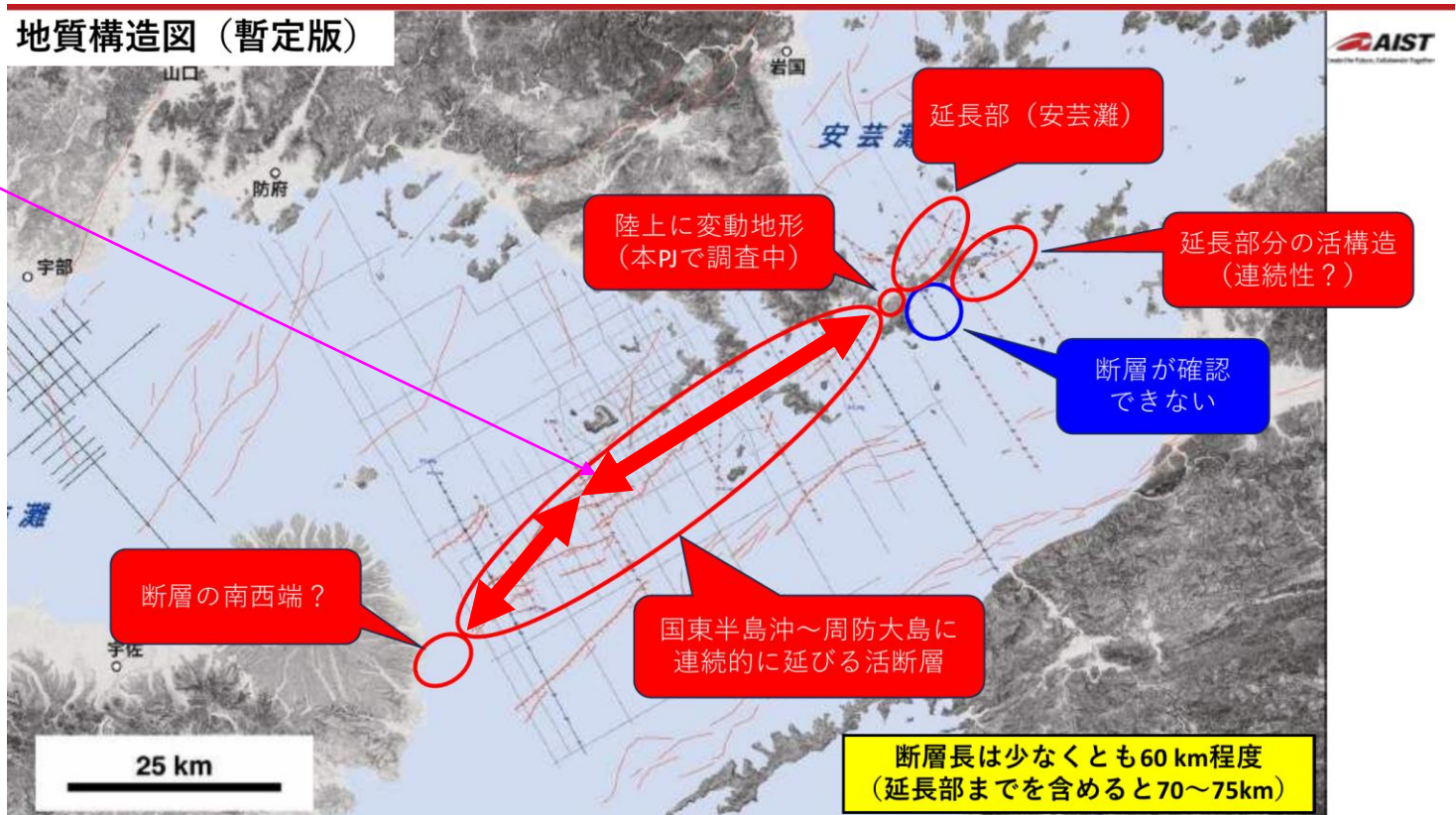
②-1防予諸島沖の海底活断層

●防予諸島沖の海底活断層

- ・H20調査: 想定なし
- ・今回調査: **産業技術総合研究所の調査(R6)の成果を参照し設定**

調査成果を参考にして、断層モデルは**2つの区間に分けて設定**。
地震の規模は各区间ごとに設定し、それらが連動する場合を想定する。

- ・東側区間
(長さ: 50km、
地震の規模: $M_j=7.7$)
- ・西側区間
(長さ: 25km、
地震の規模: $M_j=7.2$)

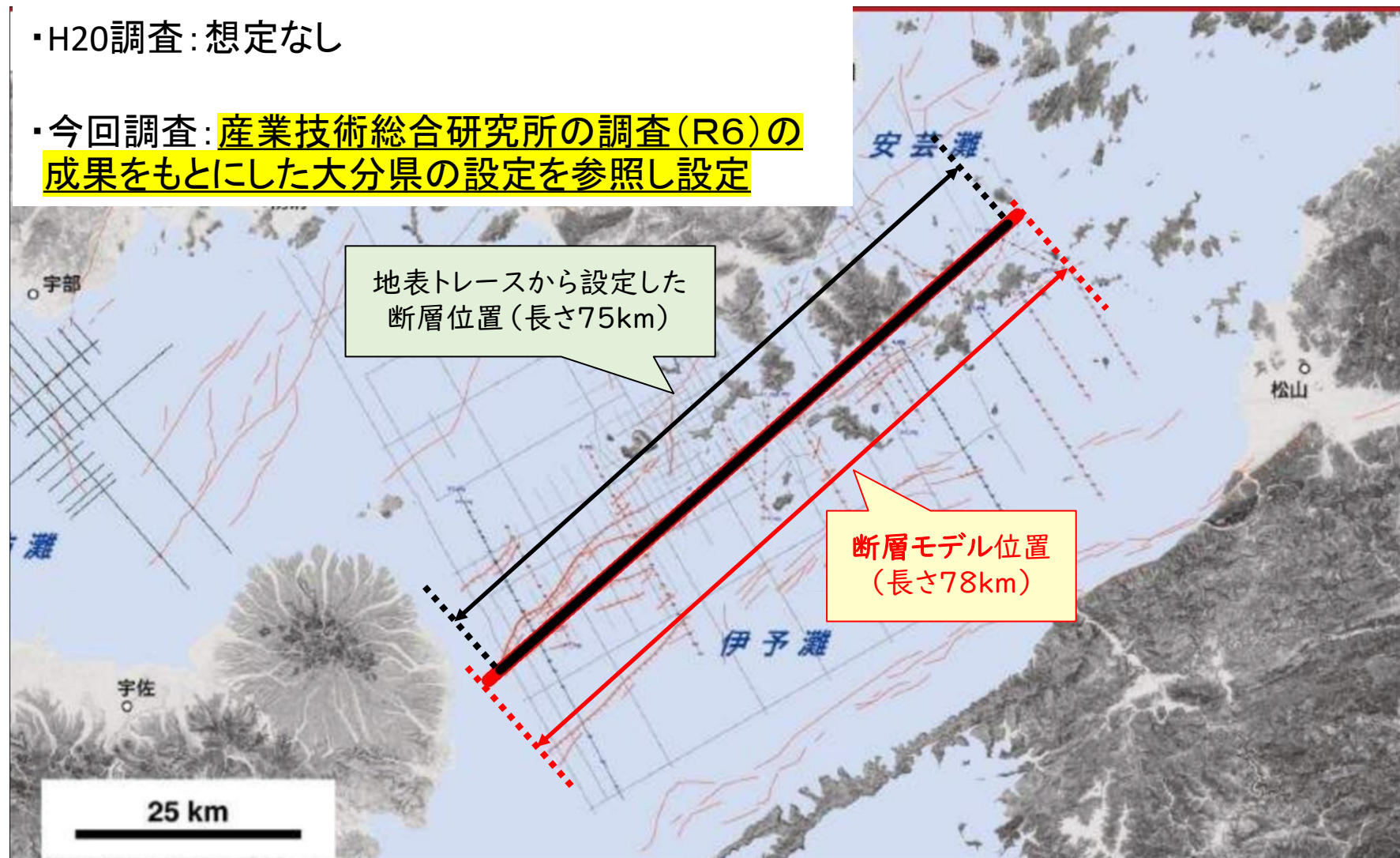


大分県第3回有識者会議 (2025.7.30開催) 配布資料 (産業技術総合研究所説明資料) より

※想定地震の断層設定に複数候補がある場合は、候補をそれぞれ枝番で示している

②0-2防予諸島沖の海底活断層

- ・H20調査：想定なし
- ・今回調査：**産業技術総合研究所の調査(R6)の成果をもとにした大分県の設定を参照し設定**



大分県 国東半島沖断層帯の震源設定イメージ

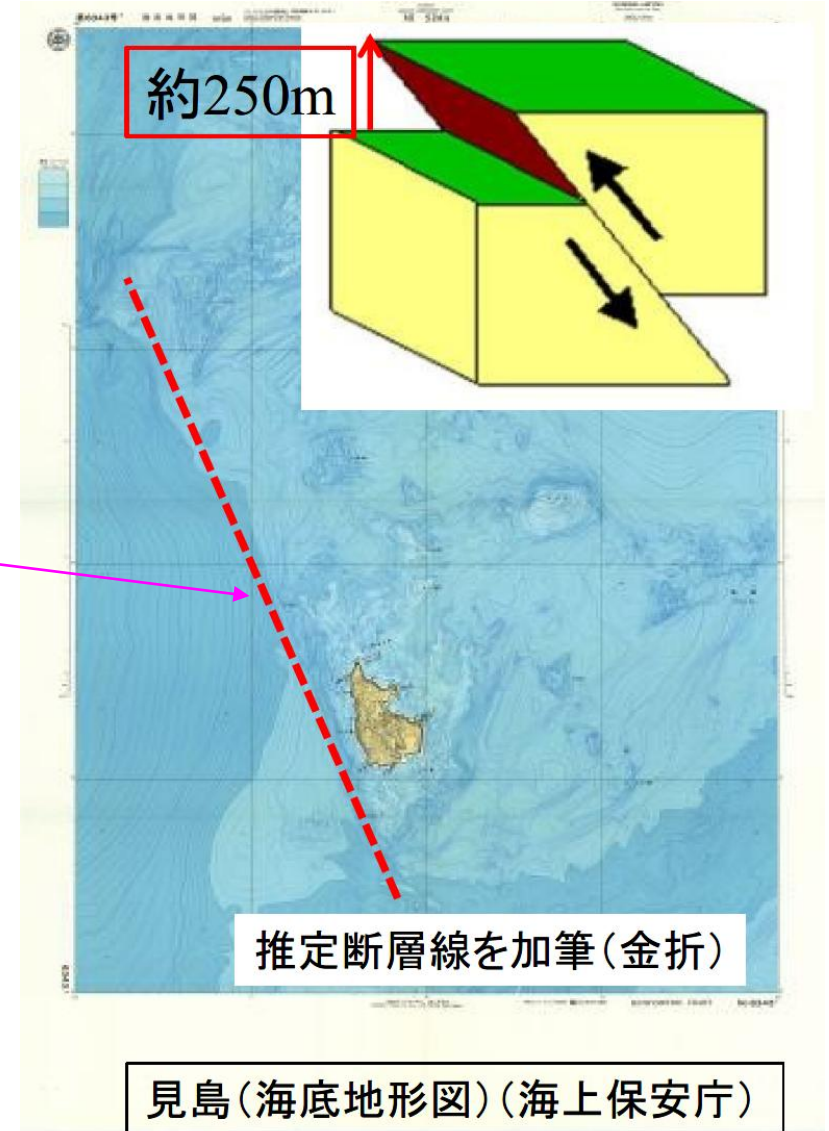
※想定地震の断層設定に複数候補がある場合は、候補をそれぞれ枝番で示している

②見島西縁断層

●見島西縁断層

- ・H20調査：想定なし
- ・今回調査：**海底地形における急崖部を断層として設定**

急崖部の延長を断層線として設定
(長さ: 27km、地震の規模: $M_j=7.2$)



金折先生提供資料による

②小倉東断層

●小倉東縁断層

- ・H20調査：想定なし
- ・今回調査：地震本部の「小倉東断層」を対象

長期評価の断層の特性に基づき全体を1断層として設定
(長さ:23km、地震の規模:Mj=7.1)

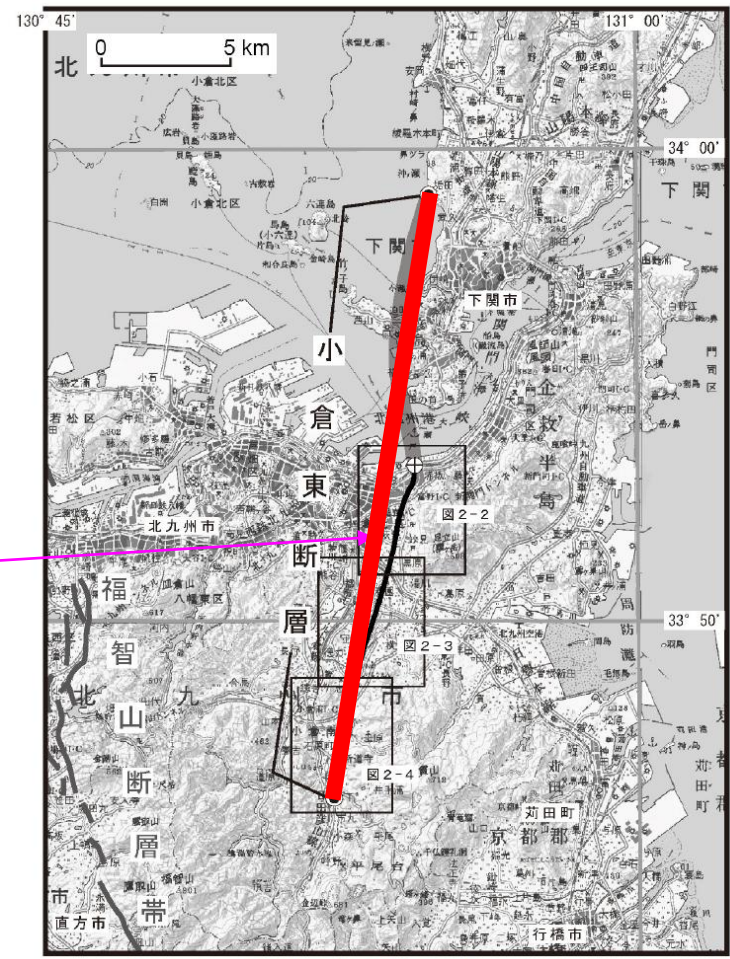


図2-1 小倉東断層の位置(矩形は図2-2～図2-4の範囲を示す)
●:断層の端点
⊕:小倉東断層の地表における端点
黒線:地表で認められる活断層 灰色太線:重力異常・地質構造から位置が推定された活断層(伏在断層)
基図は国土地理院発行数値地図 200000(地図画像)「福岡」を使用。

「小倉東断層の長期評価」(地震本部2013)に加筆

参考資料

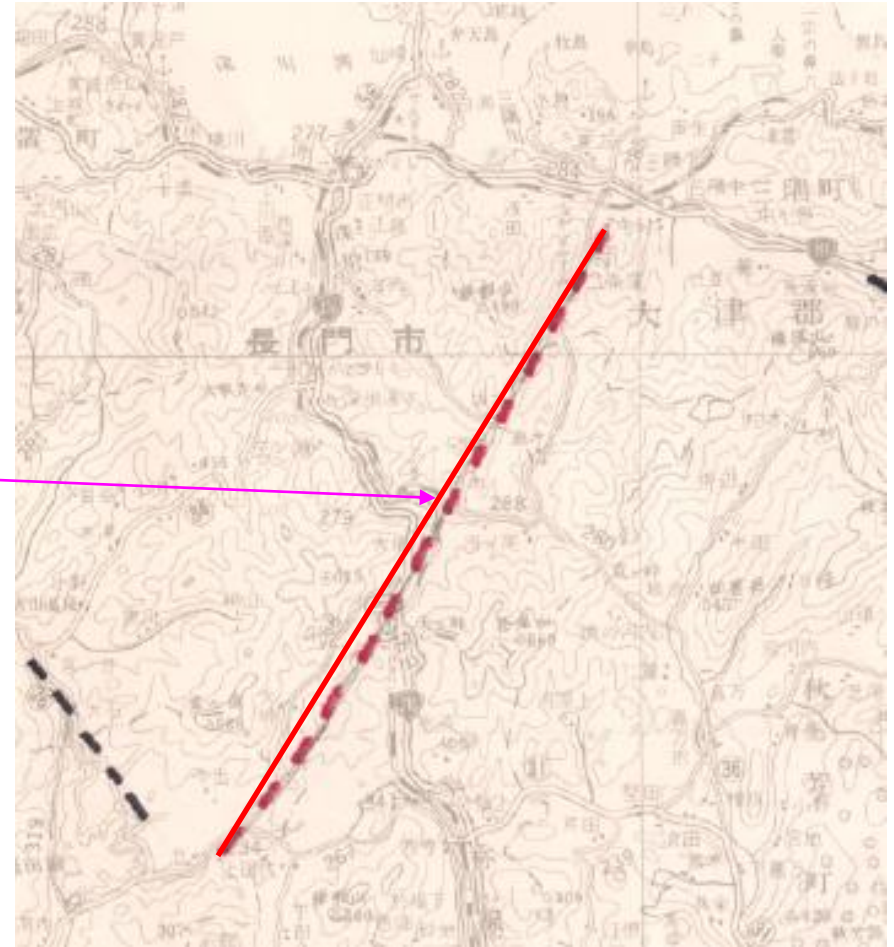
旧版図面:「山口県の活断層」(2005)を基図にした断層位置図

⑦渋木断層(旧版図面)

●渋木断層

- ・H20調査:「新編日本の活断層」により想定
- ・今回調査: **H20調査と同じ**設定

「新編日本の活断層」を参考に設定
(長さ:15km、地震の規模:Mj=6.8)



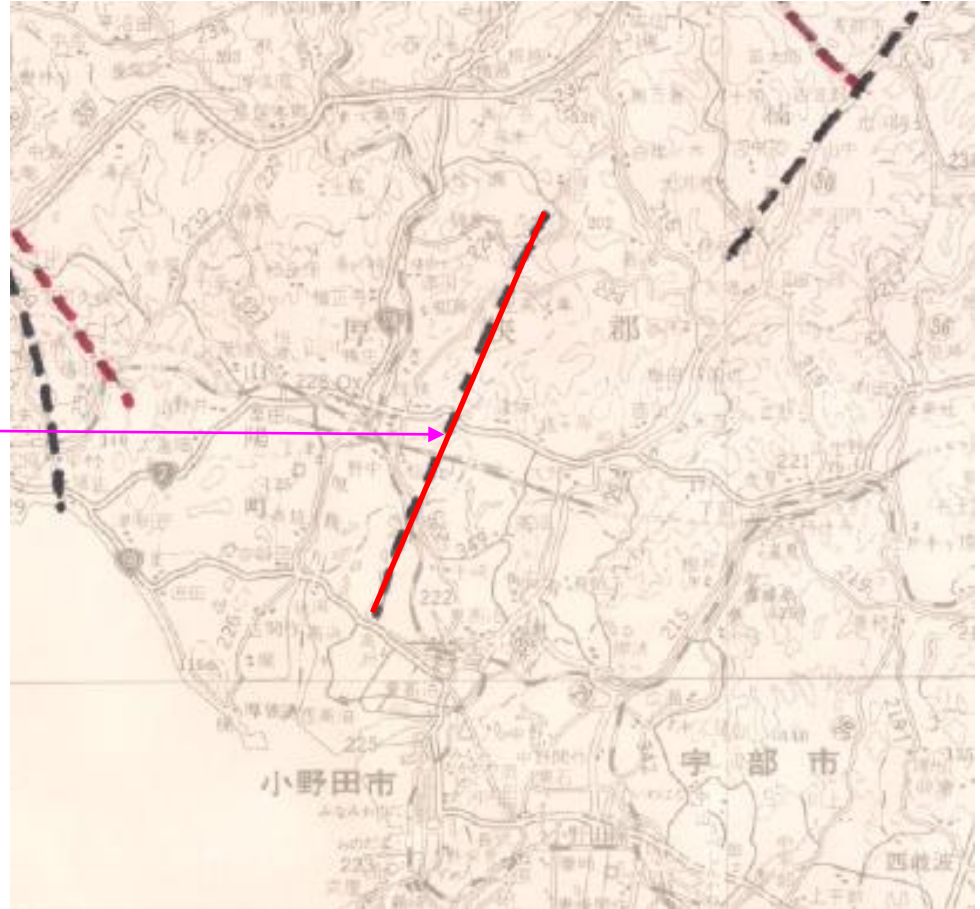
「山口県の活断層」(2005)に加筆

⑧厚狭東方断層(旧版図面)

●厚狭東方断層

- ・H20調査:「山口県地質図」により想定
- ・今回調査: **H20調査と同じ**設定

「山口県地質図」を参考に設定
(長さ:9.4km、地震の規模:Mj=6.5)



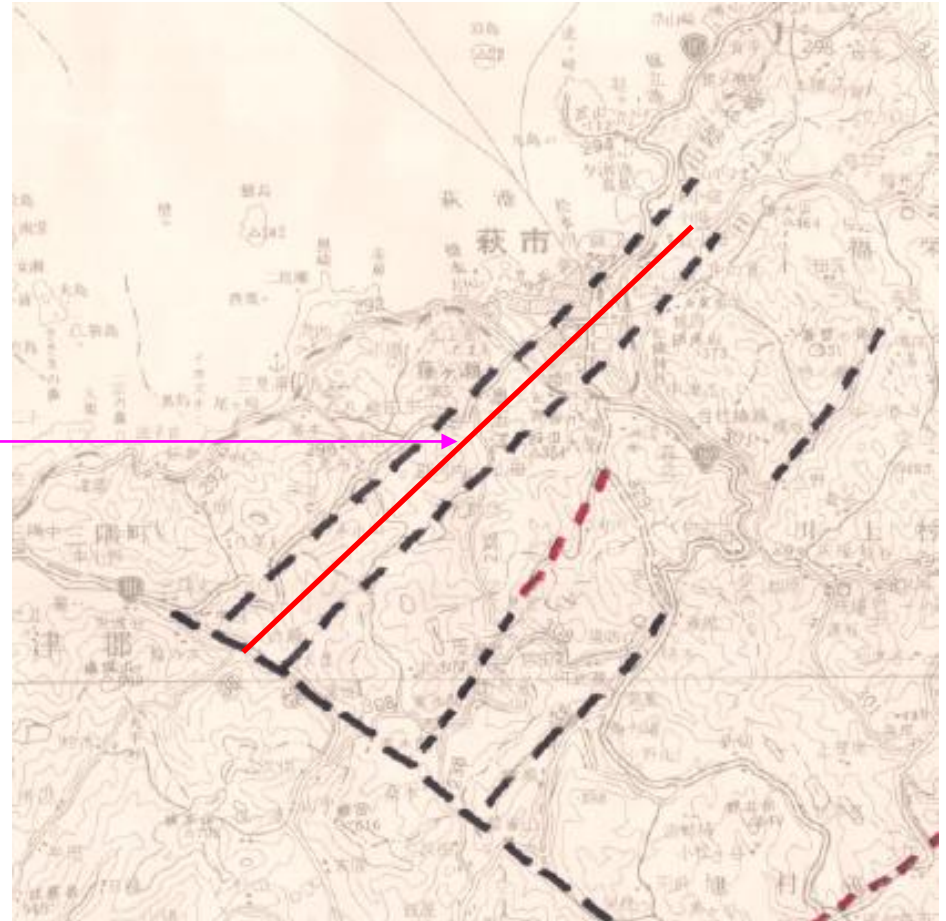
「山口県の活断層」(2005)に加筆

⑨萩北断層(旧版図面)

●萩北断層

- ・H20調査:「山口県地質図」により想定
- ・今回調査: **H20調査と同じ**設定

「山口県地質図」を参考に設定
(長さ:14.6km、地震の規模:Mj=6.8)



「山口県の活断層」(2005)に加筆

⑩才ヶ峠断層(旧版図面)

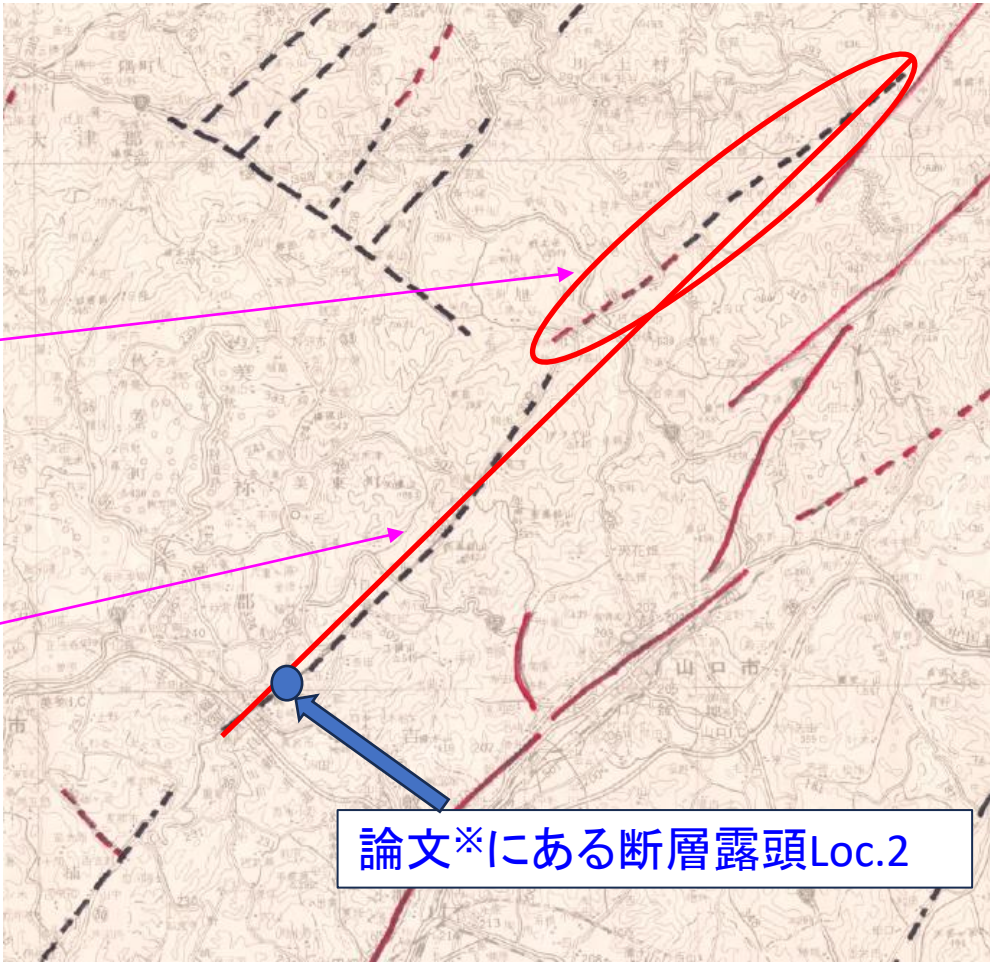
●才ヶ峠断層

- ・H20調査:「山口県地質図」により想定
- ・今回調査: H20調査に、**北側への延長を考慮し設定**

「山口県の活断層」を参考に設定
(長さ:15.5km、地震の規模:Mj=6.8)

「山口県地質図」を参考に設定
(長さ:16.8km、地震の規模:Mj=6.9)
北側への延長部を含めた全体とした場合
(長さ:34km、地震の規模:Mj=7.4)

- ・論文※にある断層長さ20kmという記述は、断層露頭位置を含む構造線を表現していると考えられる。
- ・Loc.2は元の想定断層線の南端に近い箇所である(図中青●)。
- ・そのため、延長部が20kmという記述は避け、活断層図から読み取った数値を採用した。



論文※にある断層露頭Loc.2

「山口県の活断層」(2005)に加筆

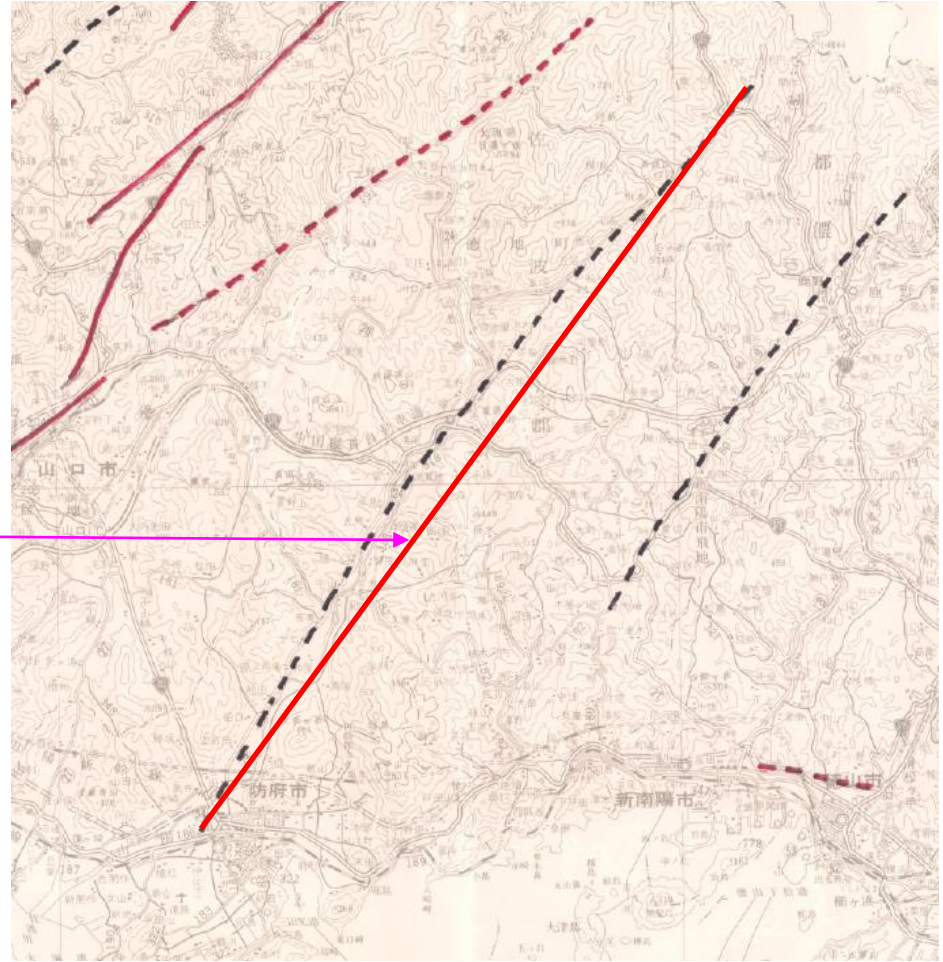
※田村・金折(2017):山口県南西部、才ヶ峠構造線に関連した活断層露頭. 応用地質,58.290-296

⑫佐波川断層(旧版図面)

●佐波川断層

- ・H20調査:「山口県地質図」により想定
- ・今回調査: **H20調査と同じ**設定

「山口県地質図」を参考に設定
(長さ:34.4km、地震の規模:Mj=7.4)



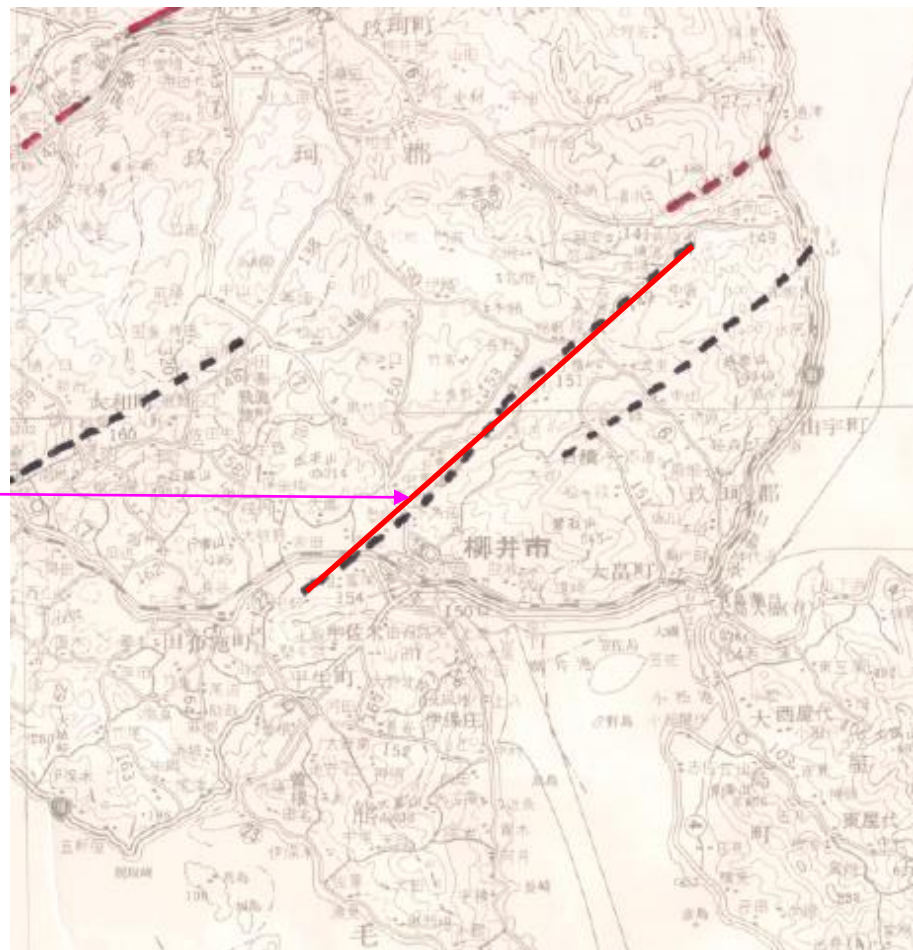
「山口県の活断層」(2005)に加筆

⑭日積断層(旧版図面)

●日積断層

- ・H20調査: 「山口県地質図」により想定
- ・今回調査: **H20調査と同じ**設定

「山口県地質図」を参考に設定
(長さ: 13.4km、地震の規模: Mj=6.7)



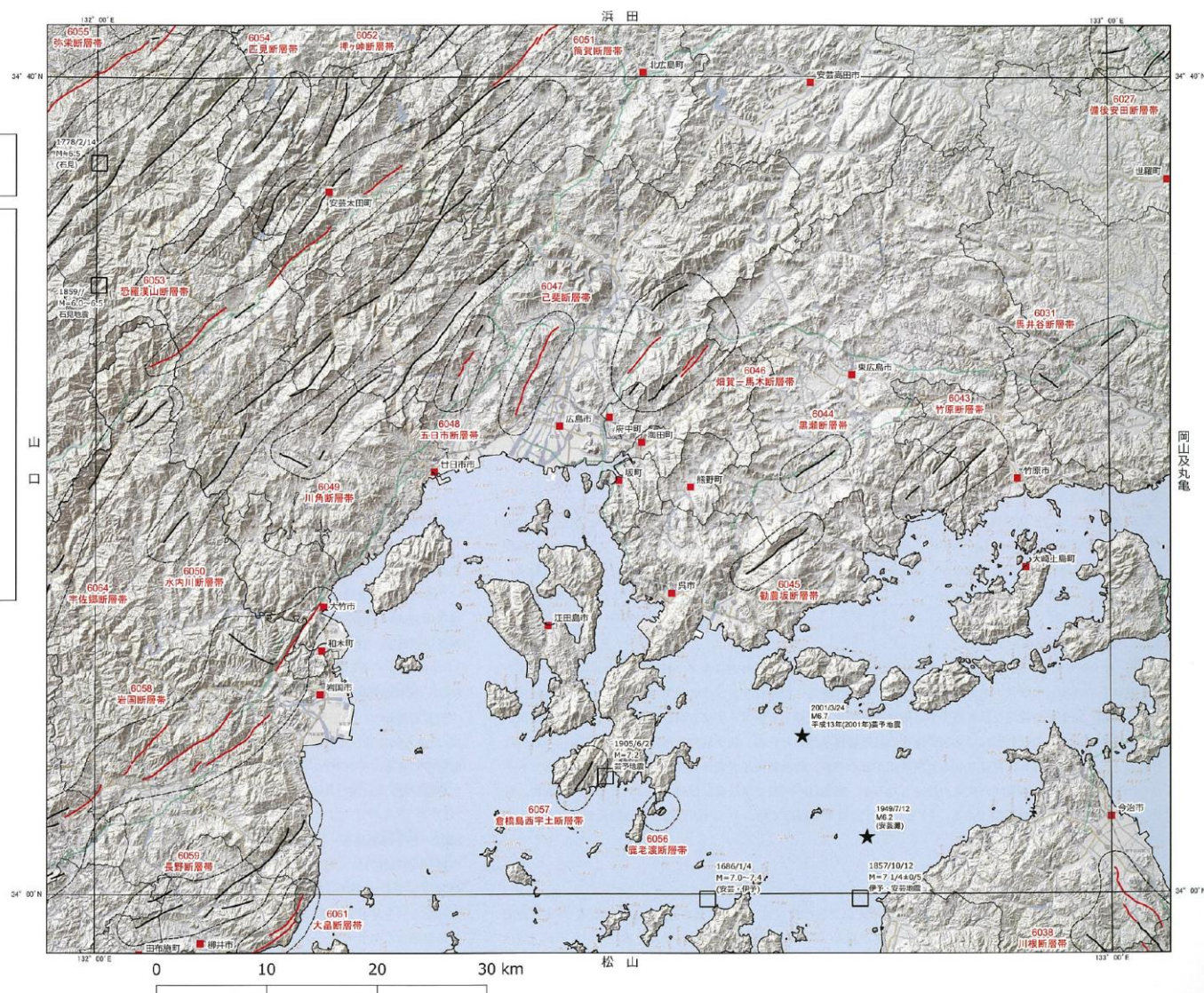
「山口県の活断層」(2005)に加筆

参考資料(日本の活断層総覧(2025))の抜粋

松多信尚・熊原康博

凡 例

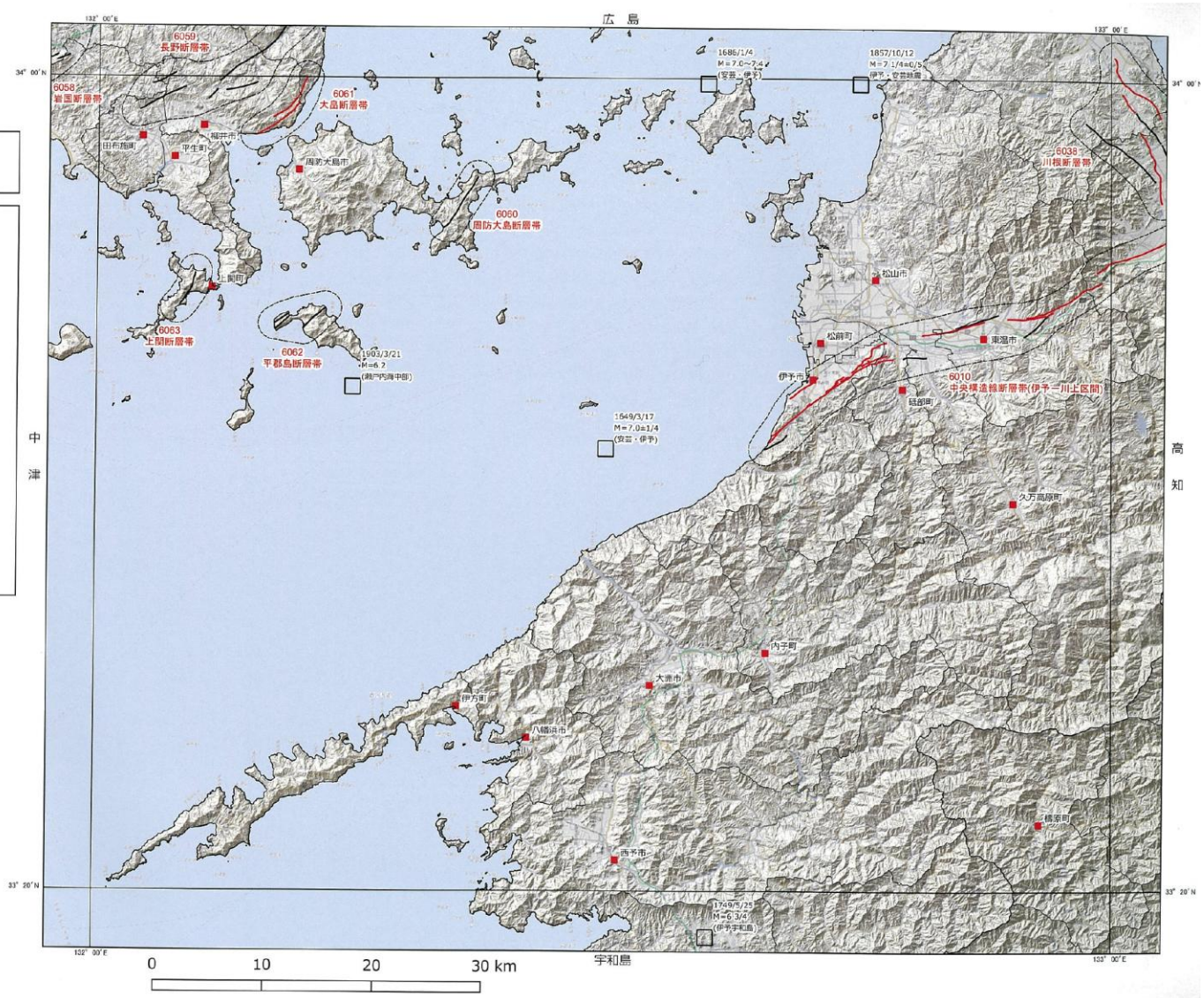
-  都道府県境界
 -  市区町村境界
 -  市町村役場
 -  活火山（気象庁）
 -  地震（M 6.0 以上）
 -  歴史地蔵（M 6.0 以上）
 -  活断層帯
- 活断層
-  活断層
 -  推定活断層
 -  伏在活断層
 -  块断
 -  活褶曲（背斜）
 -  活褶曲（向斜）
 -  地震地殻断層



92 松山

作成者
田力正好・楠原京子

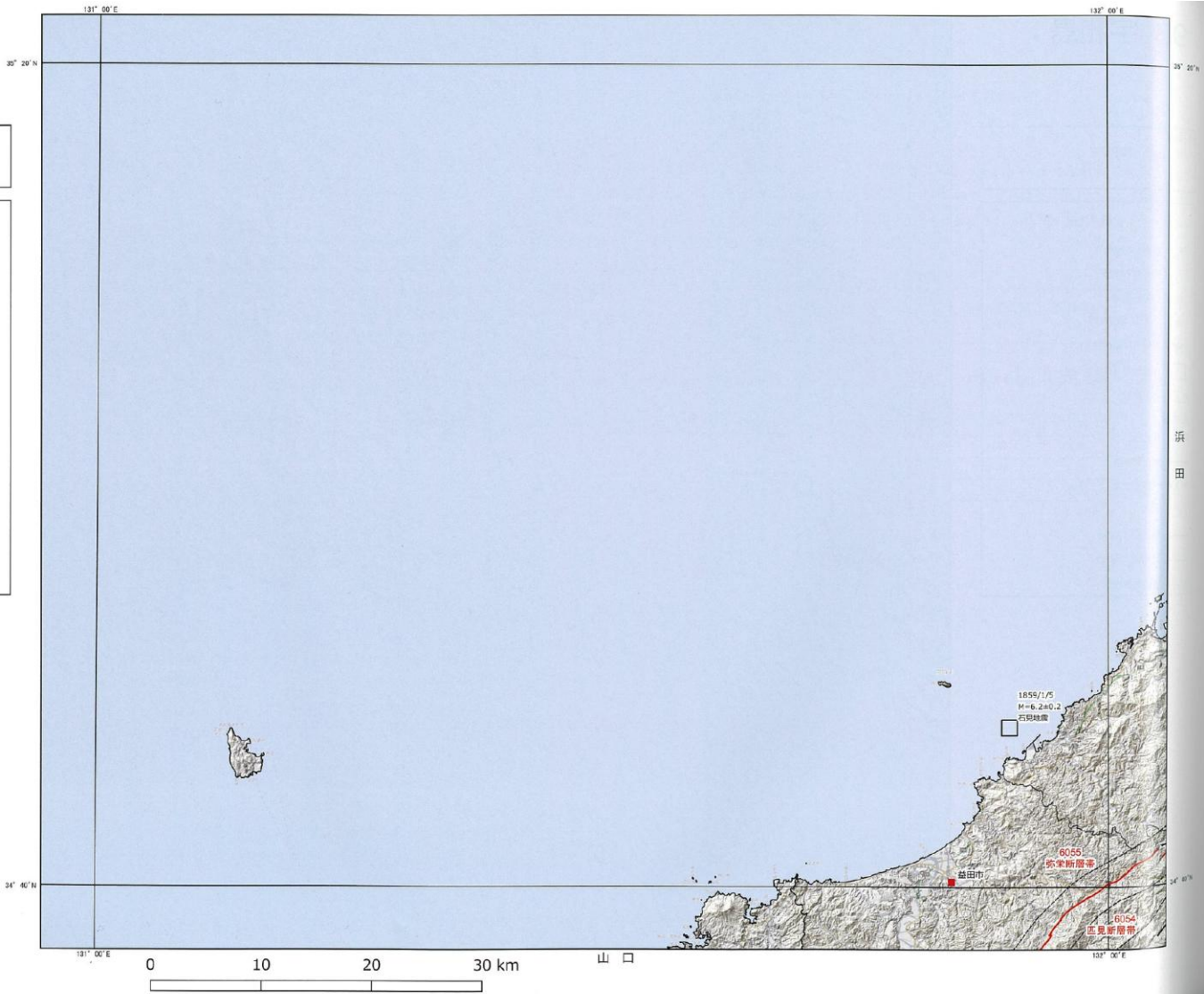
- 凡 例
- 都道府県境界
 - 市区町村境界
 - 市町村役場
 - 活火山 (気象庁)
 - 地震 (M 6.0 以上)
 - 歴史地震 (M 6.0 以上)
 - 活断層帯
 - 活断層
 - 推定活断層
 - 伏在活断層
 - 褶動
 - 活褶曲 (背斜)
 - 活褶曲 (向斜)
 - 地震地震断層



94 見島

作成者
田力正好・植原京子

- 凡 例
- 都道府県境界
 - 市区町村境界
 - 市町村役場
 - ▲ 活火山 (気象庁)
 - ★ 地震 (M 6.0 以上)
 - 歴史地震 (M 6.0 以上)
 - 活断層帯
 - 活断層
 - 推定活断層
 - 伏在活断層
 - ↗ 傾動
 - 延縮曲 (背斜)
 - 延縮曲 (向斜)
 - 地表地震断層

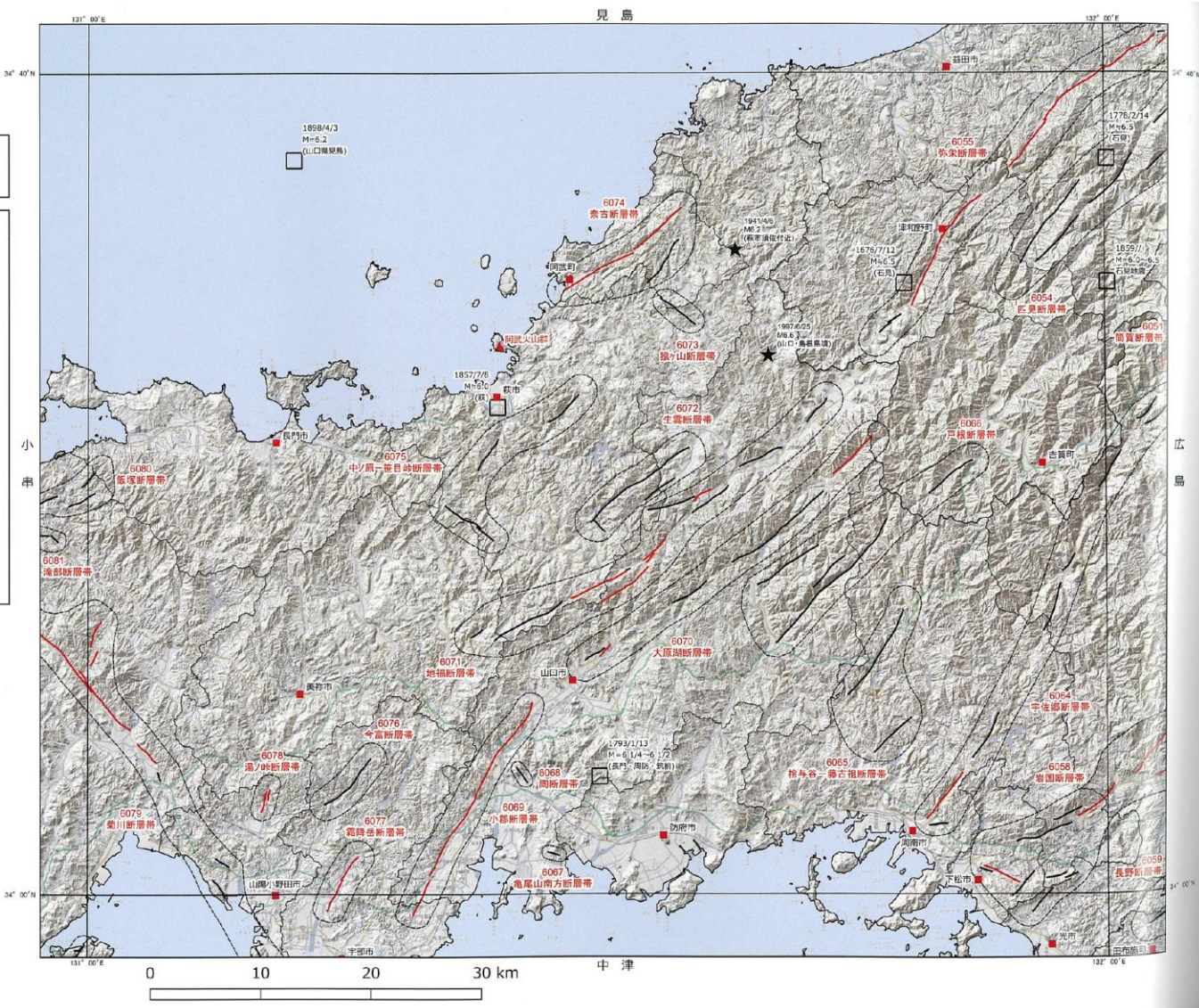


95 山口

作成者
田力正好・植原京子

凡 例

- 都道府県境界
- 市区町村境界
- 市町村役場
- ▲ 活火山 (気象庁)
- ★ 地震 (M 6.0 以上)
- 歴史地震 (M 6.0 以上)
- 活断層
- 活断層
- - 推定活断層
- · - 伏在活断層
- ↗ 傾動
- 活褶曲 (背斜)
- - 活褶曲 (向斜)
- 地表地震断層



98 中津

作成者
小山拓志・堤 浩之
田力正好・植原京子

凡 例

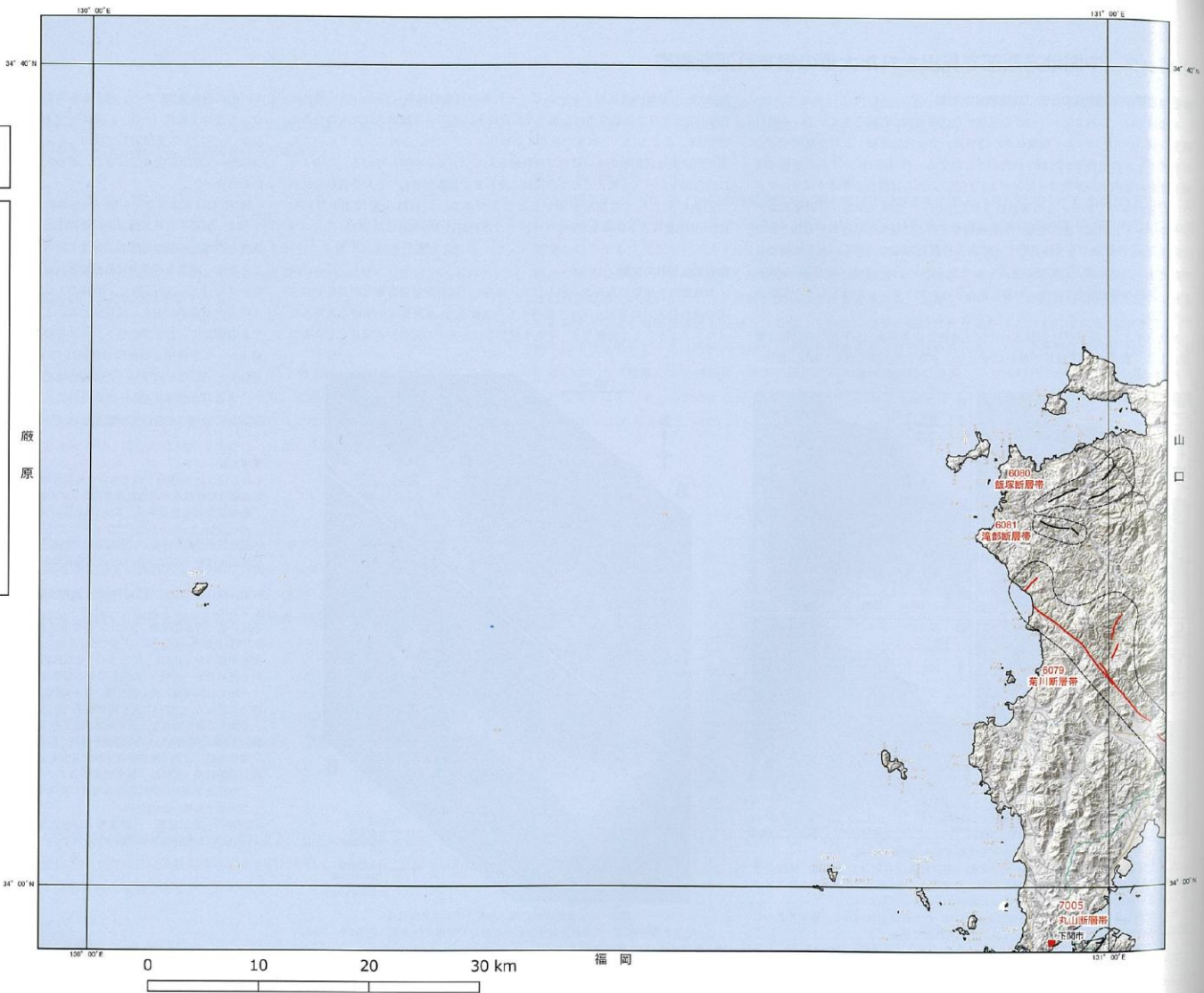
- 市道府県境界
- 市区町村境界
- 市町村役場
- 活火山 (気象庁)
- 地震 (M 6.0 以上)
- 歴史地震 (M 6.0 以上)
- 活断層等
- 活断層
- 逆断層
- 推定逆断層
- 伏在活断層
- 傾動
- 活褶曲 (背斜)
- 活褶曲 (向斜)
- 地震地震断層



96 小串

作成者
田力正好・楳原京子

- 凡 例
- 都道府県境界
 - 市区町村境界
 - 市町村役場
 - 活火山（気象庁）
 - 地震（M 6.0 以上）
 - 歴史地震（M 6.0 以上）
 - 活断層帯
 - 活断層
 - 推定活断層
 - 伏在活断層
 - 傾動
 - 活褶曲（背斜）
 - 活褶曲（向斜）
 - 地表地震断層



「日本の活断層総覧」に掲載されている断層諸元

【91広島】掲載分

活断層帯 ID	活断層帯名称	長さ (km)	主な方向	変位様式	隆起側	活動度	平均変位速度 (m/千年)	最新活動時期 (年前)	活動間隔 (年)	活動時単位変位量 (m)
6043	竹原断層帯 (推定)	9	NE	SR	—	不明	不明	不明	不明	不明
6044	黒瀬断層帯 (推定)	4	NE	VR	NW	不明	不明	不明	不明	不明
6045	勸農坂断層帯 (推定)	7	NE	SR, VR	NW	不明	不明	不明	不明	不明
6046	畑賀-馬木断層帯	11	NE	SR, VR	NW	不明	不明	不明	不明	不明
6047	己斐断層帯	9	NNE	SR	—	不明	不明	≧23,000	不明	1
6048	五日市断層帯	7	NNE	SR	—	不明	不明	5~7 世紀	不明	1
6049	川角断層帯 (推定)	28	NE, NW	SR, SL	—	不明	不明	不明	不明	不明
6050	水内川断層帯 (推定)	51	NE	SR, VR	NW	不明	不明	不明	不明	不明
6051	筒賀断層帯	54	NE	SR	—	B	0.5~0.9	不明	不明	6
6052	押ヶ峠断層帯 (推定)	32	NE	SR	—	不明	不明	不明	不明	不明
6053	恐羅漢山断層帯 (推定)	19	NE	SR	—	不明	不明	不明	不明	不明
6054	匹見断層帯 (推定)	27	NE	SR	—	不明	不明	不明	不明	不明
6056	鹿老渡断層帯 (推定)	≧1	NE	SR	—	不明	不明	不明	不明	不明
6057	倉橋島西字上断層帯 (推定)	≧3	NE	SR	—	不明	不明	不明	不明	不明
6058	岩国断層帯	40	ENE, NW	SR, SL	—	B	0.3~0.6	11,000~10,000	9,000~18,000	4
6059	長野断層帯 (推定)	19	ENE	SR, VR	S	不明	不明	不明	不明	不明

【92松山】掲載分

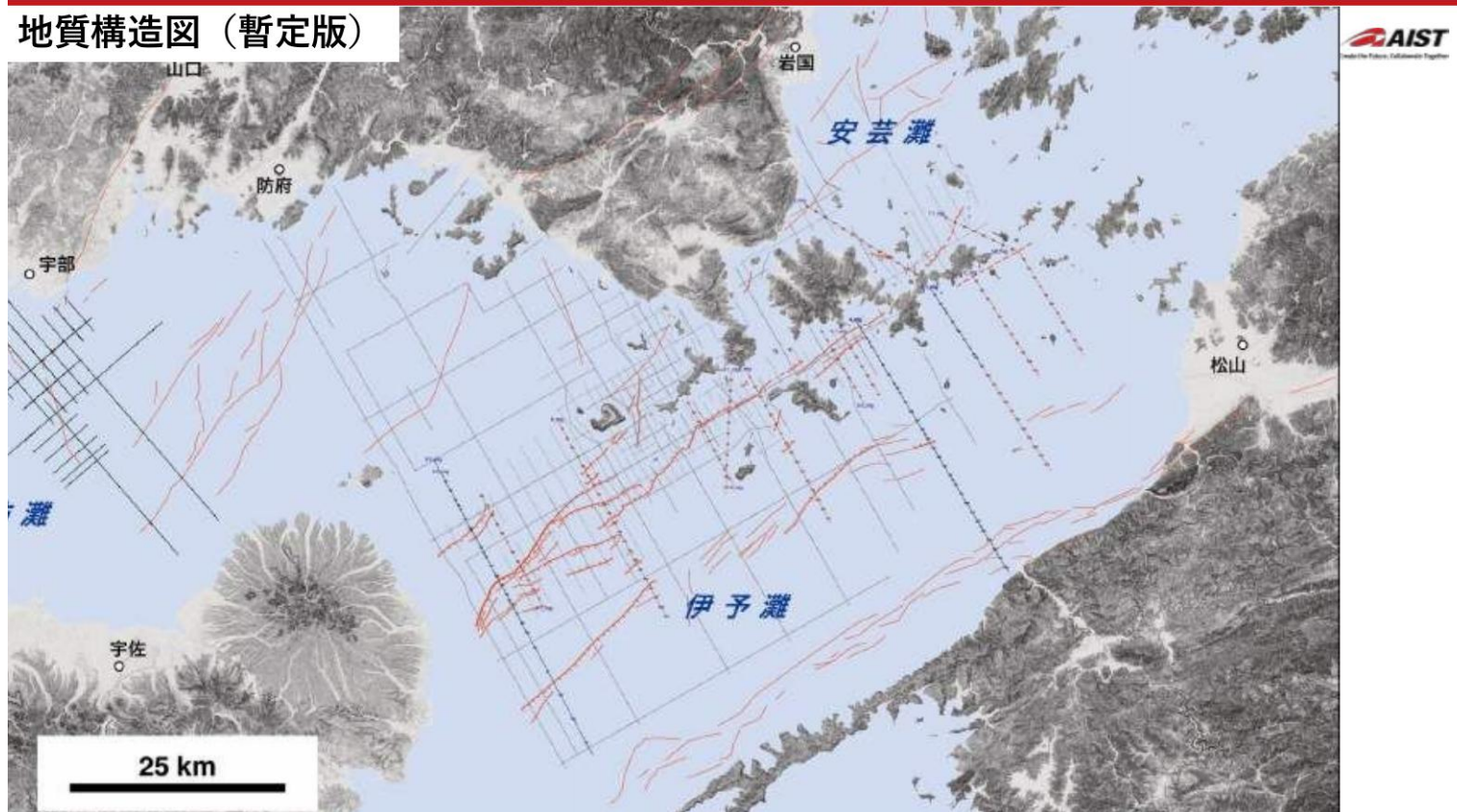
活断層帯 ID	活断層帯名称	長さ (km)	主な方向	変位様式	隆起側	活動度	平均変位速度 (m/千年)	最新活動時期 (年前)	活動間隔 (年)	活動時単位変位量 (m)
6010	中央構造線断層帯 (伊予-川上区間)	≧69	ENE	SR, VR	N (東半部) S (西半部)	A	1~2	17~18 世紀	1,000~7,000	2~7
6060	周防大島断層帯 (推定)	≧6	NNE	SR	—	不明	不明	不明	不明	不明
6061	大島断層帯	≧7	NE	SR	—	不明	不明	不明	不明	不明
6062	平部島断層帯 (推定)	≧5	ENE	SR	—	不明	不明	不明	不明	不明
6063	上関断層帯 (推定)	≧4	NNE	SR	—	不明	不明	不明	不明	不明

【95山口】掲載分

活断層帯 ID	活断層帯名称	長さ (km)	主な方向	変位様式	隆起側	活動度	平均変位速度 (m/千年)	最新活動時期 (年前)	活動間隔 (年)	活動時単位変位量 (m)
6055	弥栄断層帯	52	NE	SR	—	A	0.4~1.2	11,000~300	4,000~13,000	5
6064	宇佐郷断層帯	44	NNE	SR	—	不明	不明	不明	不明	不明
6065	桧与谷-藤古祖断層帯 (推定)	13	NNE	SR	—	不明	不明	不明	不明	不明
6066	戸根断層帯 (推定)	24	NE	SR	—	不明	不明	不明	不明	不明
6067	亀尾山南方断層帯 (推定)	1	WNW	SL	—	不明	不明	不明	不明	不明
6068	陶断層帯 (推定)	2	NW	VR	SW	不明	不明	不明	不明	不明
6069	小郡断層帯	22	NE	SR, VR	NW	不明	不明	500~300	23,000~25,000	3
6070	大原洞断層帯	33	NE	SR	—	不明	不明	不明	不明	4
6071	地福断層帯	39	NE	SR	—	不明	不明	不明	不明	4
6072	生雲断層帯 (推定)	11	NE, NW	SR, SL	—	不明	不明	不明	不明	不明
6073	猿ヶ山断層帯 (推定)	5	NW	SL	—	不明	不明	不明	不明	不明
6074	奈古断層帯	13	NE	SR	SE	不明	不明	不明	不明	1
6075	中ノ原-笹目峠断層帯 (推定)	16	NE, NW	SR, SL	—	不明	不明	不明	不明	不明
6076	今富断層帯 (推定)	6	NE	SR	—	不明	不明	不明	不明	不明
6077	霜降岳断層帯	6	NNE	SR	—	不明	不明	不明	不明	1
6078	湯ノ峠断層帯	2	NNE	VR, SR	E, W	不明	不明	不明	不明	不明
6079	菊川断層帯	≧40	NW	SL	NE	A~B	0.7~1.0	5,900~3,300	4,100~5,900	4

P28スライドの背景図のみの図

地質構造図（暫定版）



想定地震候補の一覧

資料 2 関連

地 震	H20.3 被害想定			地震本部			今回被害想定				理 由・備 考
	対象地震	長さ(km)	規模(M)	長期評価	長さ(km)	規模(M)	対象地震		長さ(km)	規模(M)	
東南海・南海地震	○			○			－				「南トラ・周防灘断層群地震津波被害想定」で実施
安芸灘～伊予灘の地震	○	28	7.25	○	－	6.7～7.4程度	○	①	28	7.25	明治38年(1905年)芸予地震規模の地震が再来するケースを想定。
大竹断層（小方－小瀬断層）	○	26	7.2	○	46 (78)	7.6程度 (7.9～8.0程度)	○	②-1	26	7.2	H20調査と同じ想定 ※岩国－五日市断層帯：岩国断層区間の一部を対象。地震本部の数字は区間全体の数値及び複数区間の活動の場合の数値()内。
	－	－	－					②-2	46	7.6	長期評価の「岩国－五日市断層帯」のうち岩国断層区間を対象。
菊川断層	○	21	7.0	○	48 (114もしくはそれ以上)	7.6程度 (7.9～8.2程度もしくはそれ以上)	○	③-1	21	7.0	H20調査と同じ想定 ※菊川断層帯：中部区間の一部を対象。地震本部の数字は区間全体の数値及び断層帯全部が活動した場合の数値()内。
	－	－	－					③-2	48	7.6	長期評価の「菊川断層帯」のうち中部区間を対象
大原湖断層系(山口盆地北西縁断層)	○	12	6.6	○	42	7.5程度	○	④-1	12	6.6	H20調査と同じ想定（H20山口盆地北西縁断層） ※長期評価の「大原湖断層・小郡断層」の一部を対象。地震本部の数字は大原湖断層の数値。
	－	－	－					④-2	49	7.7	長期評価の「大原湖断層」と上記「H20山口盆地北西縁断層」を対象
大原湖断層系(宇部東部断層＋下郷断層)	○	20	7.0	○	31	7.3程度	○	⑤-1	20	7.0	H20調査と同じ想定 ※長期評価の「大原湖断層・小郡断層」のうち、小郡断層の一部を対象。地震本部の数字は小郡断層の数値。
	－	－	－					⑤-2	40	7.5	長期評価の「小郡断層」上記「H20山口盆地北西縁断層」を対象
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部～伊予灘）	○	130	8.0	○	41、88	7.5程度、8.0程度もしくはそれ以上	○	⑥	41、88	7.5程度、8.0程度もしくはそれ以上	中央構造線断層帯：石鎚山脈北縁西部区間、伊予灘区間の2区間で設定。
洪水断層	○	15	6.8	－	－	－	○	⑦	15	6.8	新編日本の活断層記載の断層
厚狭東方断層	○	9.4	6.5	－	－	－	○	⑧	9.4	6.5	山口県地質図記載の断層
萩北断層	○	14.6	6.8	－	－	－	○	⑨	14.6	6.8	山口県地質図記載の断層
オケ峠断層	○	16.8	6.9	－	－	－	○	⑩	34	7.4	H20調査設定の断層を北側に延長。山口県地質図記載の断層及び論文をもとに設定。 ○田村友識・金折裕司，2017，山口県中南部、オケ峠構造線に関連した活断層露頭，応用地質，58，290-296.
徳佐－地福断層	○	25.1	7.2	○	27	7.2程度	○	⑪	25.1	7.2	※地福断層：地震本部の数字は地福断層の数値
防府沖海底断層	○			○			－				「南トラ・周防灘断層群地震津波被害想定」で実施
佐波川断層	○	34.4	7.4	－	－	－	○	⑫	34.4	7.4	山口県地質図記載の断層
大河内断層	○	15.1	6.8	－	－	－	○	⑬	15.1	6.8	※岩国－五日市断層帯（最新の評価では評価対象外）：旧評価（岩国断層帯）に記載
日横断層	○	13.4	6.7	－	－	－	○	⑭	13.4	6.7	山口県地質図記載の断層
安芸灘断層帯	－	－	－	○	26	7.2程度	○	⑮	26	7.2	長期評価に基づいて設定
広島湾－岩国冲断層帯	－	－	－	○	38	7.5程度	○	⑯	38	7.5	長期評価に基づいて設定
宇部南方冲断層	－			○			－				「南トラ・周防灘断層群地震津波被害想定」で実施
弥栄断層（※弥畝山西断層）	－	－	－	○	53	7.7程度	○	⑰	39	7.5	長期評価の設定を2区間に区分し、そのうち南側区間を対象。名称については論文を考慮。 ○福塚康三郎・金折裕司，2002，断層の地形・地質学的特徴と地震活動および重力異常・島根県南西部，弥畝山西断層を例として－，応用地質，43，226-234. ○相山光太郎・金折裕司，2012，隣接する活断層の連結性と変位様式：弥畝山西断層と都茂断層の例，応用地質，52，137-142.
滝部断層	－			○			－				
奈古断層（※河内断層）	－	－	－	○	13	6.7程度	○	⑱	13	6.7	長期評価に基づいて設定。名称については論文を考慮。 ○神谷雅晴，1974，山口県阿武地域白亜系の層序および地質構造(阿武地区ろう石鉱床の研究-1-) 地質調査所月報 25 (3), 105-118,
栄谷断層	－	－	－	○	8	6.3程度	○	⑲	8	6.3	長期評価に基づいて設定
防予諸島沖の海底活断層	－	－	－	－	－	－	○	⑳-1	2区間 (50、25)	2区間 (7.7、7.2)	産業技術総合研究所の調査（R6）等を踏まえ設定
	－	－	－	－	－	－		⑳-2	75	7.9	産業技術総合研究所の調査（R6）等を踏まえた大分県設定（国東半島冲断層帯）の断層モデル
見島西縁断層	－	－	－	－	－	－	○	㉑	27	7.2	第七管区海上保安本部（2013） ※平成24年6月21日（木）第2回山口県地震・津波防災対策検討委員会 資料1で「見島付近南西縁断層（断層1-A）」として検討されている
小倉東断層	－	－	－	○	23程度	7.1程度	○	㉒	23	7.1	長期評価に基づいて設定（長期評価と同じ全体で1断層として設定）

第9回

山口県地震・津波防災対策検討委員会

日本海の想定地震候補について

令和8年6月12日

1. 想定地震候補の設定における基本方針

- 次頁に示す前回の想定地震候補①～⑦及び⑧見島西縁断層を対象に、想定地震候補として検討を行った。
- 検討に当たっては、上記①～⑧について、「日本海南西部の海域活断層の長期評価」(地震本部、2022.3)において評価された活断層との比較検討により、想定地震候補の見直し等を実施。
- 検討の結果、②神田岬沖断層については、⑤F59断層と同様に菊川断層帯の一部であるが、⑤の方が地震規模が大きく、**②は⑤に包含されるため、単独での検討は実施しない。**
- また、③見島北方沖西部断層については長期評価を踏まえて、想定地震候補を**「対馬海盆南方断層(26)」に変更**する。
- なお、⑧は、明治31(1898)年、見島の地震(M6.2)の断層と推定されており、新規の想定地震候補。

1. 想定地震候補の設定における基本方針

想定地震候補の検討結果（案）

番号	地震名	前回想定		R8想定	
		想定地震候補	想定地震	想定地震候補	諸元の変更等
①	見島付近西部断層	○	○	○	変更なし
②	神田岬沖断層	○			⑤F59断層に包含される
③	見島北方沖西部断層	○	○	○	対馬海盆南方断層に変更
④	佐渡島北方沖の地震	○		○	変更なし
⑤	F59断層	○		○	変更なし
⑥	F60断層	○	○	○	変更なし
⑦	F58断層	○		○	変更なし
⑧	見島西縁断層			○	新規

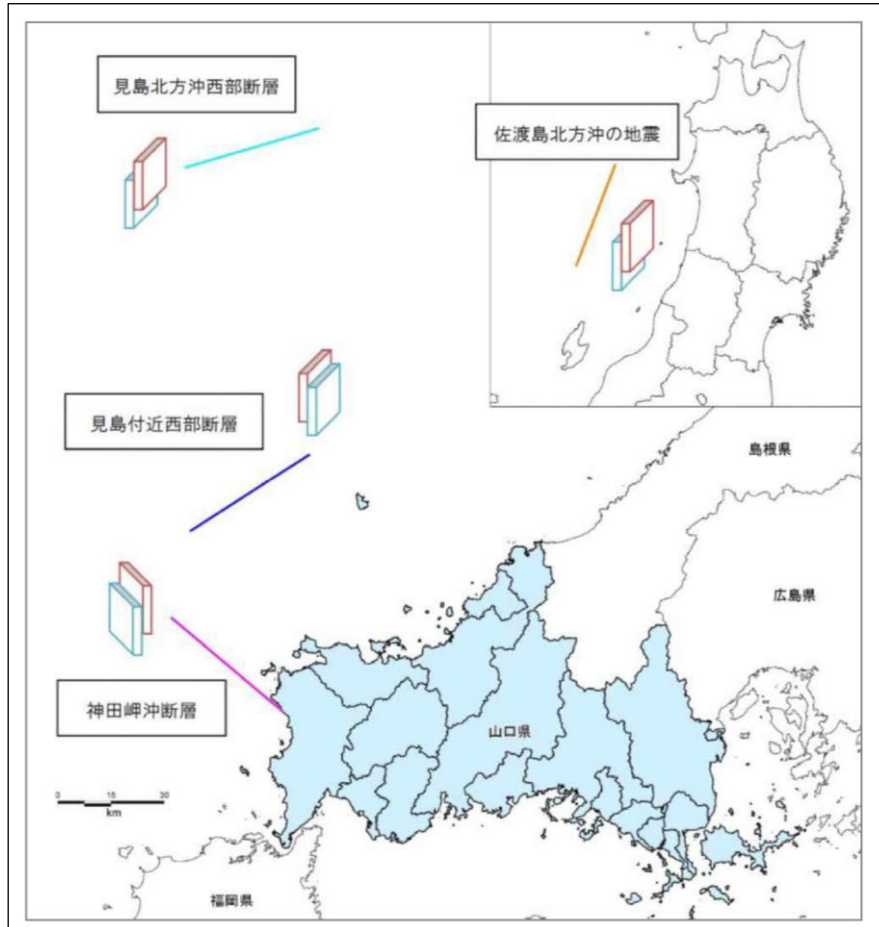
※前回想定では想定地震候補のうち、津波高の比較によって想定地震を抽出

- 想定地震候補：被害想定の対象とするか検討する地震
- 想定地震：候補の中から、被害想定を行う対象として選定した地震

※津波高の比較によって、想定地震候補の中から、想定地震を決定予定

2. 前回想定における想定地震候補の概要

- 前回想定では、日本海で想定する最大クラスの津波断層モデルについて、音波探査記録の分析などにより、活断層型の①見島付近西部断層、②神田岬沖断層、③見島北方沖西部断層の3断層及び海溝型の④佐渡島北方沖の4断層を設定した。



津波断層モデルの位置図

断層パラメータ

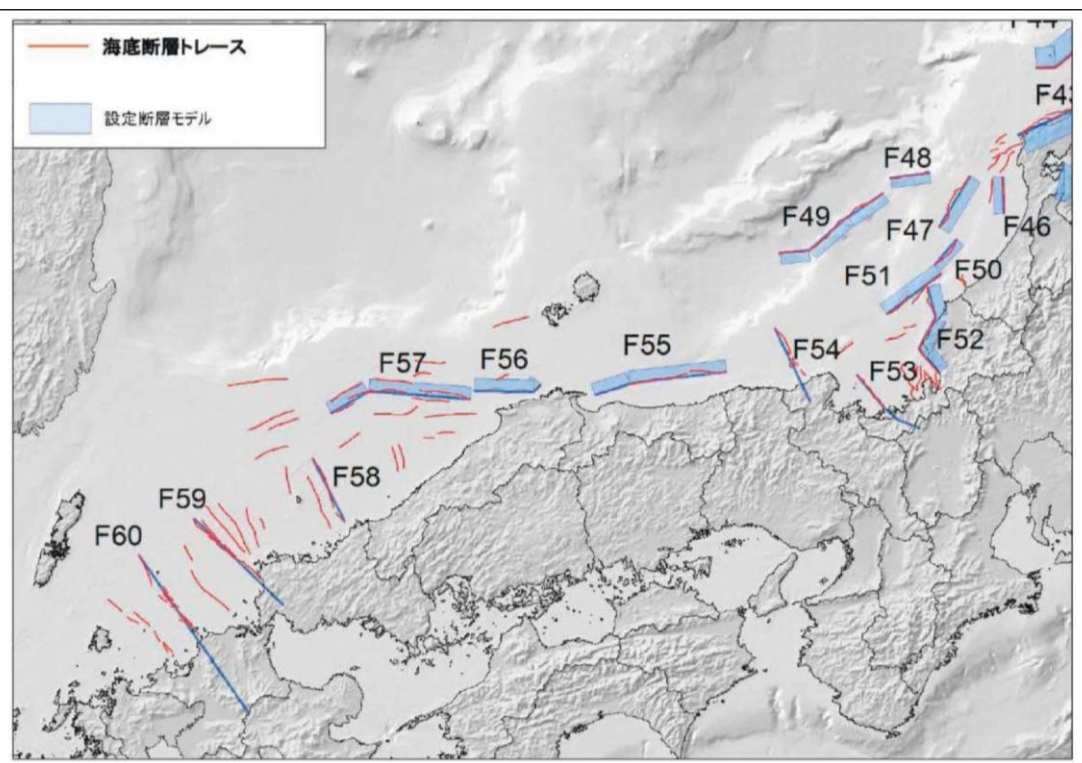
断層名	地震の規模		断層の位置		
	M	Mw	緯度 (°)	経度 (°)	上縁 深さ (km)
①見島付近西部断層	7.5	7.16	34.8941	130.9834	0
②神田岬沖断層	7.5	7.16	34.2547	130.9001	0
③見島北方沖西部断層	7.5	7.13	35.6131	130.6081	0
④佐渡島北方沖の地震	8.4	7.85	38.95258	138.40982	0

断層パラメータ

断層名	断層の大きさ			断層の向き		
	長さ L (km)	幅 W (km)	すべり量 D (m)	走向 θ (°)	傾斜角 δ (°)	すべり角 λ (°)
①見島付近西部断層	40	15	1.93	237.2	90	90
②神田岬沖断層	40	15.2	1.28	310	80	90
③見島北方沖西部断層	38	15	3.20	73.5	90	90
④佐渡島北方沖の地震	131.1	17.3	9.44	20	60	90

2. 前回想定における想定地震候補の概要

- 一方、国(国土交通省、内閣府、文部科学省)においては、日本海側における最大クラスの津波断層モデルとして60断層を設定し、日本海側の各市町村での最大津波高等を公表した(2014.8)。
- 前回想定では、このうち、山口県日本海側の各市町において、平地での最大の津波高を発生させる⑤F59断層、⑥F60断層、⑦F58断層の3断層を設定した。



津波断層モデルの位置図

断層パラメータ

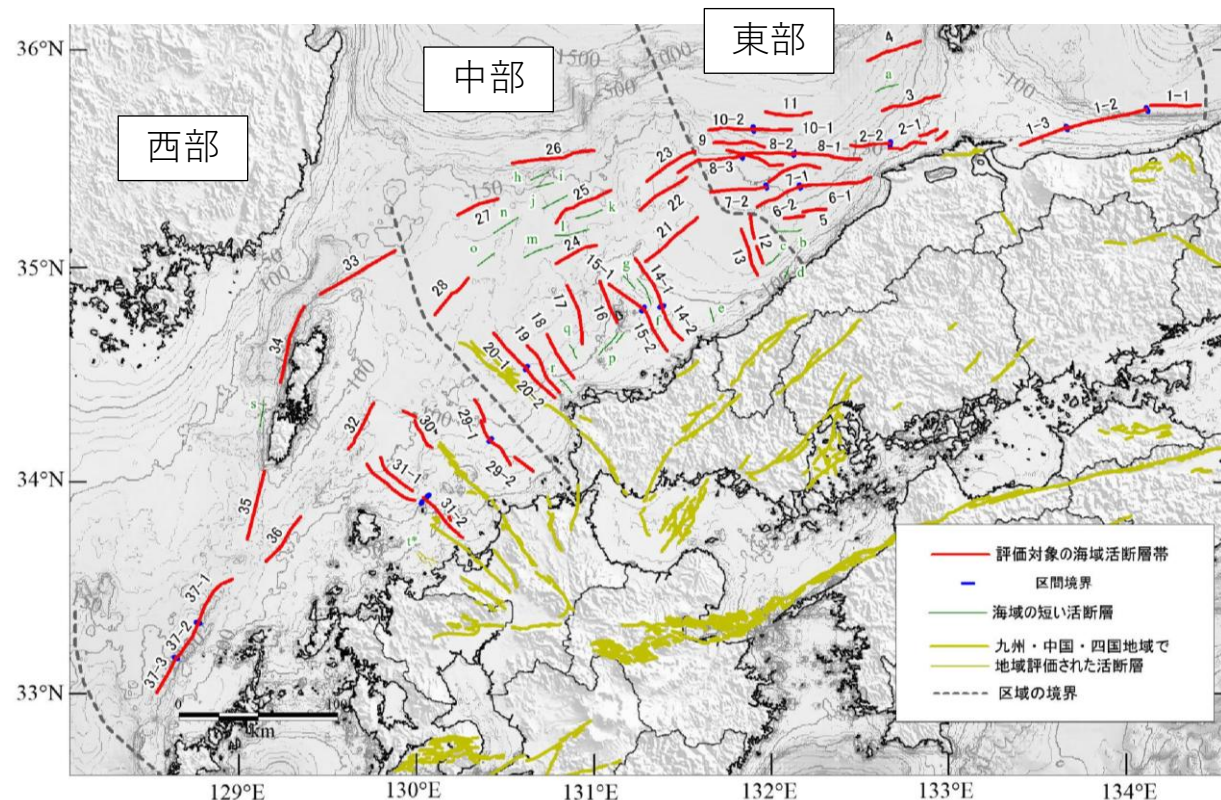
断層名	地震の規模	断層の位置			
	Mw	緯度 (°)	経度 (°)	上端深さ (km, TP-)	下端深さ (km, TP-)
⑤F59	7.38	34.1000	131.0833	1.1	15.0
⑥F60	7.59	33.3933	130.8816	1.0	15.0
⑦F58	7.13	34.6586	131.5104	1.1	15.0

断層パラメータ

断層名	断層の大きさ			断層の向き		
	長さ L (km)	幅 W (km)	すべり量 D (m)	走向 θ (°)	傾斜角 δ (°)	すべり角 λ (°)
⑤F59	87.9	13.9	3.49	310	90	325
⑥F60	136.9	14.0	4.60	321	90	325
⑦F58	50.1	13.9	2.63	329	90	325

3. 日本海南西部の海域活断層の長期評価(第一版)

- 地震本部は、日本海南西部の海域活断層についてマグニチュード7(長さ20km)以上の活断層を主な対象として長期評価を行い、2022年3月に公表した。
- 前回想定の想定地震候補と長期評価の諸元を比較し、想定地震候補の見直しや断層諸元の変更について検討を行った。



(東部)		(中部)	
1-1	伯耆沖断層帯 (東部区間)	12	浜田沖断層
1-2	伯耆沖断層帯 (中部区間)	13	三隅沖断層
1-3	伯耆沖断層帯 (西部区間)	14-1	須佐沖断層帯 (北部区間)
2-1	島根半島北方沖断層帯 (東部区間)	14-2	須佐沖断層帯 (南部区間)
2-2	島根半島北方沖断層帯 (西部区間)	15-1	モドロ岬沖断層帯 (北部区間)
3	出雲沖断層	15-2	モドロ岬沖断層帯 (南部区間)
4	島前西方断層	16	見島近海断層
5	江津沖断層	17	卯持ノ瀬東方断層
6-1	日御碕沖断層帯 (東部区間)	18	向津具沖断層
6-2	日御碕沖断層帯 (西部区間)	19	角島沖東断層
7-1	根滝グリ北方断層帯 (東部区間)	20-1	角島沖西断層帯 (北部区間)
7-2	根滝グリ北方断層帯 (西部区間)	20-2	角島沖西断層帯 (南部区間)
8-1	十六島鼻西方断層帯 (東部区間)	21	益田沖断層
8-2	十六島鼻西方断層帯 (中部区間)	22	千里ヶ瀬東方南断層
8-3	十六島鼻西方断層帯 (西部区間)	23	千里ヶ瀬東方北断層
9	石見沖南断層	24	タツモチ東方断層
10-1	石見沖中斷層帯 (東部区間)	25	ウマモチ北西断層
10-2	石見沖中斷層帯 (西部区間)	26	対馬海盆南方断層
11	石見沖北断層	27	長門はるか沖断層
		28	対馬北東断層
(西部)			
29-1	白島沖断層帯 (北部区間)		
29-2	白島沖断層帯 (南部区間)		
30	沖ノ島近海断層		
31-1	小呂島近海断層帯 (北西沖区間)		
31-2	小呂島近海断層帯 (東方沖区間)		
32	対馬東水道断層		
33	対馬北方断層		
34	対馬上県西方断層		
35	対馬南方断層		
36	七里ヶ岬根断層		
37-1	第1 五島堆断層帯 (北部区間)		
37-2	第1 五島堆断層帯 (中部区間)		
37-3	第1 五島堆断層帯 (南部区間)		

海域活断層の分布

3. 日本海南西部の海域活断層の長期評価(第一版)

海域活断層の特性(東部)

地域 細分	活断層のくくり (付録2)	評価単位 区間(付録2)	断層長 (km)	信 頼 度	各区間単独活 動の場合の地 震規模(M)	ずれの向きと種類			断層面の 傾斜方向	信 頼 度	断層面 の幅 ^{注7)}	基準面の垂 直変位量 ^{注8)} (sec)	信 頼 度	1回の ずれ量 ^{注9)}
						断層の 走向 ^{注6)}	種類	信 頼 度						
東部	伯耆冲断層帯	東部	26	○	7.2程度	N90° W	右横ずれ	○	北傾斜高角	△	17km程度	0.03	△	3m程度
		中部	42	○	7.5程度	N103° W	右横ずれ	○	北傾斜高角	○	17km程度	0.03	△	4m程度
		西部	26	○	7.2程度	N111° W	右横ずれ	○	北傾斜高角	○	17km程度	不明	—	3m程度
		全体	94	○	7.7-8.1程度									
	島根半島北方冲 断層帯	東部	30	△	7.3程度	N108° W	右横ずれ	○	北傾斜高角	△	17km程度	不明	—	3m程度
		西部	20	△	7.0程度	N90° W	右横ずれ	○	北傾斜高角	△	17km程度	不明	—	2m程度
		全体	49	△	7.7程度									
	出雲冲断層		31	△	7.3程度	N79° E	右横ずれ	○	南傾斜高角	○	17km程度	0.01	△	3m程度
	島前西方冲断層		28	△	7.2程度	N113° W	右横ずれ	○	北傾斜高角	○	17km程度	0.02	△	3m程度
	江津冲断層		22	○	7.1程度	N100° W	右横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.02	△	2m程度
	日御碕冲断層帯	東部	35	○	7.4程度	N96° W	右横ずれ	○	北傾斜高角	○	17km程度	0.02	△	4m程度
		西部	25	○	7.2程度	N116° W	右横ずれ	○	北傾斜高角	○	17km程度	不明	—	3m程度
		全体	59	○	7.8程度 N104° W									
	根滝グリ北方 断層帯	東部	26	○	7.2程度	N102° W	右横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.02	△	3m程度
		西部	29	○	7.3程度	N94° W	右横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.02	△	3m程度
		全体	57	○	7.8程度									
	十六島鼻西方冲 断層帯	東部	35	○	7.4程度	N87° W	右横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.03	△	4m程度
		中部	24	○	7.1程度	N86° W	右横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.02	△	2m程度
		西部	23	○	7.1程度	N95° W	右横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	不明	—	2m程度
		全体	83	○	7.9-8.0程度									
	石見冲南断層		27	○	7.2程度	N82° W	右横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.01	△	3m程度
	石見冲中断層帯	東部	21	○	7.0程度	N90° W	右横ずれ	○	南傾斜高角	○	17km程度	0.05	△	2m程度
		西部	21	○	7.0程度	N90° W	右横ずれ	○	南傾斜高角	○	17km程度	不明	—	2m程度
		全体	42	○	7.5程度									
	石見冲北断層		23	○	7.1程度	N90° W	右横ずれ	○	南傾斜高角	△	17km程度	0.05	△	2m程度

3. 日本海南西部の海域活断層の長期評価(第一版)

海域活断層の特性(中部)

地域 細分	活断層のくくり (付録2)	評価単位 区間(付録2)	断層長 (km)	信 頼 度	各区間単独活 動の場合の地 震規模(M)	ずれの向きと種類			断層面の 傾斜方向	信 頼 度	断層面 の幅 ^{注7)}	基準面の垂 直変位量 ^{注8)} (sec)	信 頼 度	1回の ずれ量 ^{注9)}
						断層の 走向 ^{注6)}	種類	信 頼 度						
中 部	須佐冲断層帯	北部	29	○	7.3程度	S28° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15km程度	0.01	△	3m程度
		南部	20	○	7.0程度	S33° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.02	△	2m程度
		全体	49	○	7.7程度									
	モドロ岬冲断層帯	北部	21	○	7.0程度	S52° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15km程度	不明	—	2m程度
		南部	25以上	△	7.2程度以上	S34° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.01	△	3m程度以上
		全体	45以上	△	7.6程度以上									
	見島近海断層		22	○	7.1程度	S24° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.03	△	2m程度
	卯持ノ瀬東方断層		31	○	7.3程度	S14° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.02	△	3m程度
	向津具冲断層		28	○	7.2程度	S30° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.02	△	3m程度
	角島冲東断層		29以上	△	7.3程度以上	S35° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15km程度	0.02	△	3m程度以上
	角島冲西断層帯	北部	25	○	7.2程度	S42° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15km程度	0.02	△	3m程度
		南部	21以上	△	7.0程度以上	S46° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15km程度	0.03	△	2m程度以上
		全体	46以上	△	7.6程度以上									
	菊川断層帯 ^{注10)}		菊川断層の長期評価(一部改訂)(地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2016b)を参照											
	益田冲断層		35	○	7.4程度	N129° W	右横ずれ	○	北西傾斜高角	○	17km程度	0.2	△	4m程度
	千里ヶ瀬東方南断層		40	○	7.5程度	N130° W	右横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.03	△	4m程度
	千里ヶ瀬東方北断層		28	○	7.2程度	N121° W	右横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.03	△	3m程度
	タツモチ東方断層		23	○	7.1程度	N113° W	右横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15km程度	0.02	▲	2m程度
	ウマモチ北西断層		33	○	7.4程度	N120° W	右横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15km程度	0.03	▲	3m程度
	対馬海盆南方断層		43以上	△	7.6程度以上	N82° E	右横ずれ	△	南傾斜高角	○	17km程度	0.02	▲	4m程度以上
	長門はるか冲断層		21	△	7.0程度	N69° E	右横ずれ	△	南傾斜高角	○	17km程度	0.03	▲	2m程度
	対馬北東冲断層		25	○	7.2程度	N42° E	右横ずれ	○	南東傾斜高角	○	17km程度	0.01	▲	3m程度

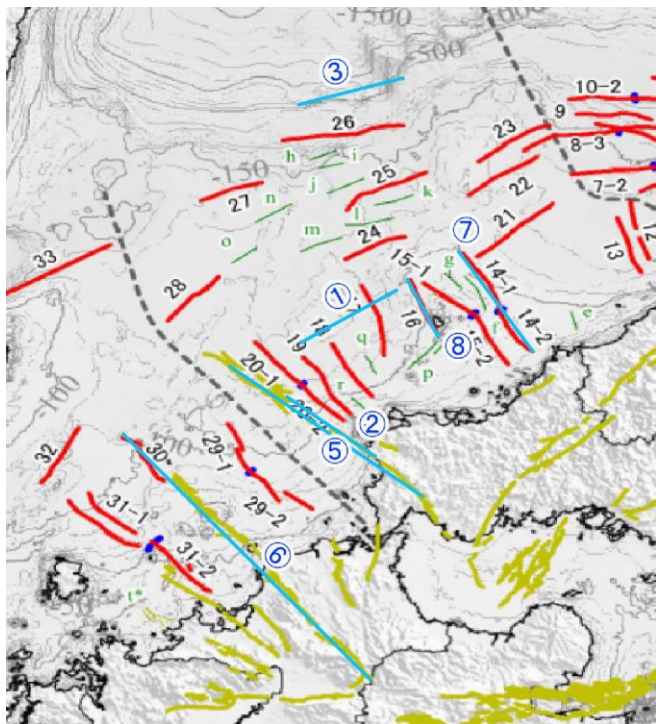
3. 日本海南西部の海域活断層の長期評価(第一版)

海域活断層の特性(西部)

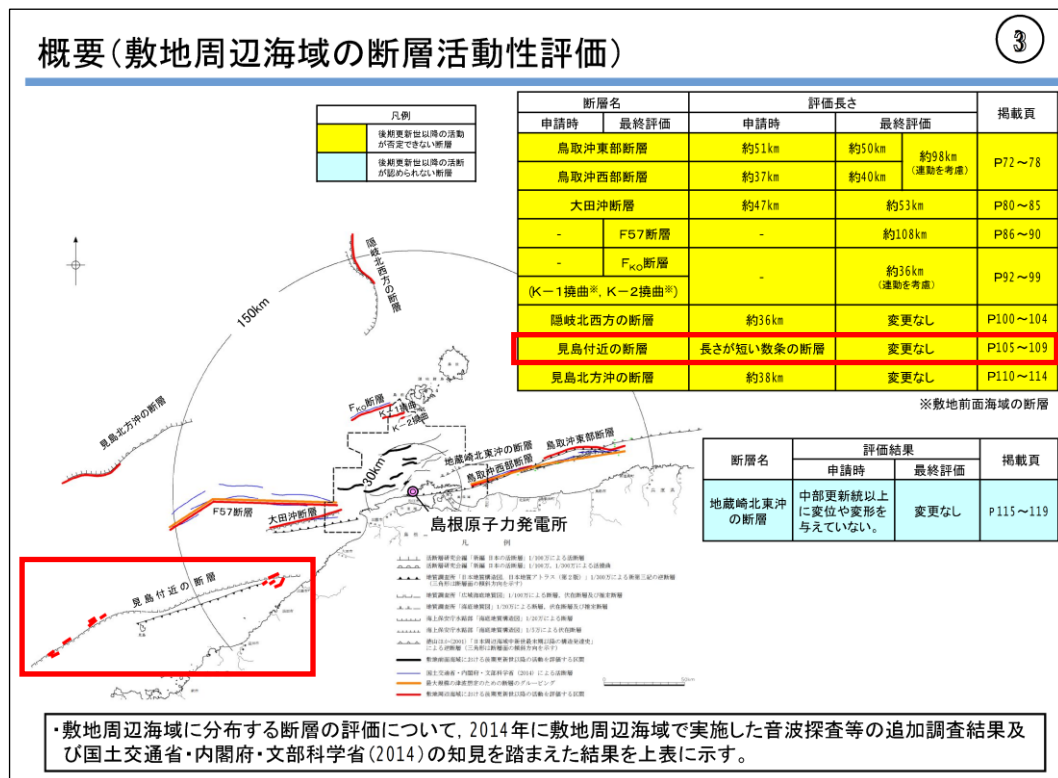
地域細分	活断層のくくり (付録2)	評価単位 区間(付録2)	断層長 (km)	信頼 度	各区間単独活 動の場合の地 震規模(M)	ずれの向きと種類			断層面の 傾斜方向	信頼 度	断層面 の幅 ^{注7)}	基準面の垂 直変位量 ^{注8)} (sec)	信頼 度	1回の ずれ量 ^{注9)}
						断層の 走向 ^{注6)}	種類	信頼 度						
西部	白島沖断層帯	北部	22	○	7.1程度	S24° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15km程度	0.01	▲	2m程度
		南部	27	○	7.2程度	S52° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	不明	—	3m程度
		全体	48	○	7.6程度									
	沖ノ島近海断層 ^{注4)}		24	○	7.1程度	S40° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.02	▲	2m程度
	西山断層帯 ^{注10)}		西山断層帯の長期評価(一部改訂)(地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2013b)を参照											
	小呂島 近海断層帯 ^{注5)}	北西沖	31	○	7.3程度	S53° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15km程度	0.02	▲	3m程度
		東方沖	28	○	7.2程度	S45° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.02	▲	3m程度
		全体	63	○	7.8程度									
	警固断層帯 ^{注10)}		警固断層帯の長期評価(地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2007)を参照											
	対馬東水道断層		27	○	7.2程度	N27° E	右横ずれ	○	東南東傾斜中角	○	21km程度	0.02	▲	3m程度
	対馬北方沖断層		45以上	△	7.6程度以上	N61° E	右横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15km程度	0.02	△	5m程度以上
	対馬上県西方沖断層		41	△	7.5程度	N17° E	右横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	不明	—	4m程度
	対馬南方沖断層		36	△	7.4程度	N12° E	右横ずれ	○	東傾斜中角	○	21km程度	不明	—	4m程度
	七里ヶ曾根断層		29	△	7.3程度	N40° E	右横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15km程度	不明	—	3m程度
	第1五島堆断層帯	北部	29	△	7.3程度	N35° E	右横ずれ	○	南東傾斜高角	△	17km程度	不明	—	3m程度
		中部	22	△	7.1程度	N40° E	右横ずれ	○	南東傾斜高角	△	17km程度	不明	—	2m程度
		南部	22	△	7.1程度	N25° E	右横ずれ	○	南東傾斜高角	△	17km程度	不明	—	2m程度
		全体	73	△	7.9程度									

4. 断層諸元

- 前回想定の①見島付近西部断層は、長期評価に対応する活断層は存在しない。
- また、前回想定での①見島付近西部断層の諸元は、中国電力島根原子力発電所の設置許可申請書(2000.10)の見島付近の断層の音波探査記録の解析結果を参考に設定している。島根原子力発電所の新規制基準に係る審査会合(2021.3)によると、この断層の評価は当時から変更がないため、被害想定における諸元について変更の必要はないと考える。



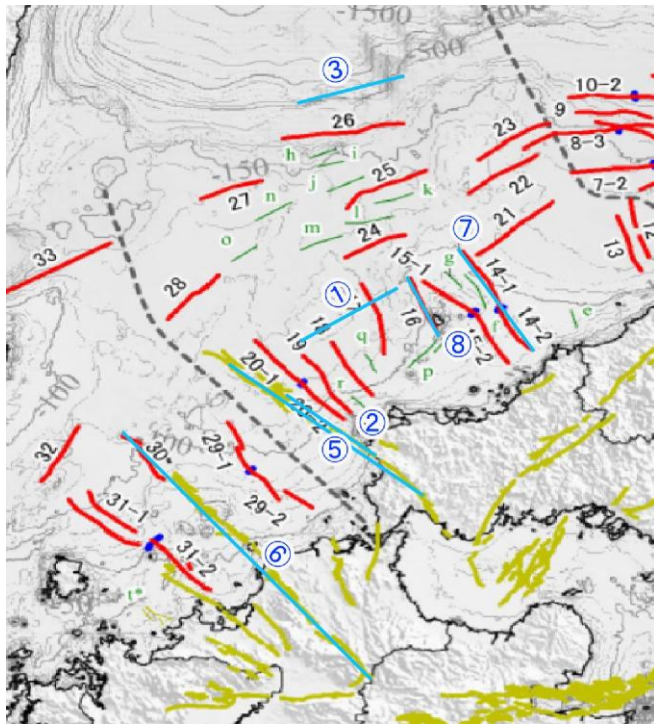
想定地震候補と長期評価の重ね合わせ



※出典：原子力発電所の新規制基準適合に係る審査会合(第972回、2021.3)の資料3

4. 断層諸元

- 前回想定の②神田岬沖断層は、前回想定の⑤F59断層と位置が近く、両断層ともに菊川断層帯の一部である。
- ⑤F59断層は総延長87.9km(M8.1)程度以上であり、②神田岬沖断層の総延長40km(M7.5)を上回る。このため、②による地震動及び津波の想定結果は⑤に包含されると考えられるため、②単独での検討は必要ないと考える。



想定地震候補と長期評価の重ね合わせ

前回想定の諸元

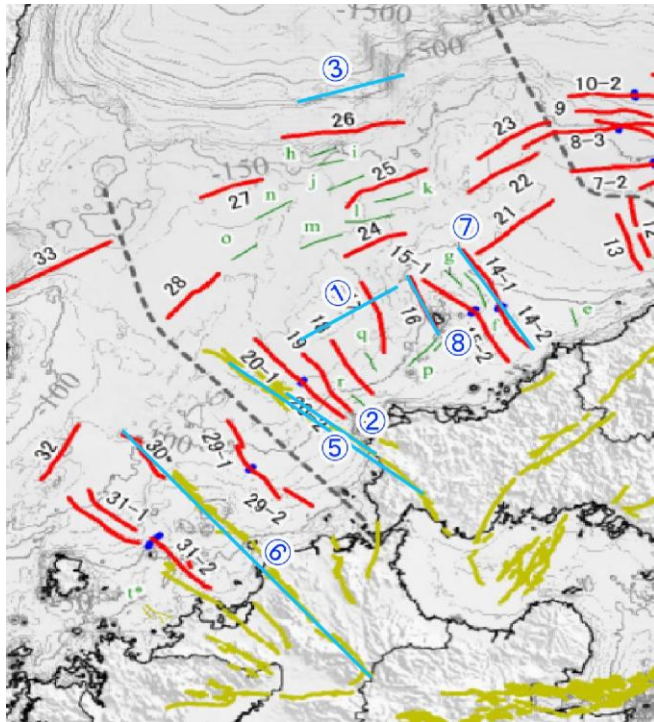
断層名	地震の規模		断層の位置			断層の大きさ			断層の向き		
	M	Mw	緯度(°)	経度(°)	上縁深さ(km)	長さL(km)	幅W(km)	すべり量D(m)	走向θ(°)	傾斜角δ(°)	すべり角λ(°)
①見島付近西部断層	7.5	7.16	34.8941	130.9834	0	40	15	1.93	237.2	90	90
②神田岬沖断層	7.5	7.16	34.2547	130.9001	0	40	15.2	1.28	310	90	90
③見島北方沖西部断層	7.5	7.13	35.6131	130.6081	0	38	15	3.2	73.5	90	90
④佐渡島北方沖の地震	8.4	7.85	38.95258	138.40982	0	131.1	17.3	9.44	20	60	90

前回想定の諸元

断層名	地震の規模		断層の位置				断層の大きさ			断層の向き		
	M	Mw	緯度(°)	経度(°)	上端深さ(km, TP-)	下端深さ(km, TP-)	長さL(km)	幅W(km)	すべり量D(m)	走向θ(°)	傾斜角δ(°)	すべり角λ(°)
⑤F59	8.1	7.38	34.1000	131.0833	1.1	15.0	87.9	13.9	3.49	310	90	325
⑥F60	8.4	7.59	33.3933	130.8816	1.0	15.0	136.9	14.0	4.60	321	90	325
⑦F58	7.7	7.13	34.6586	131.5104	1.1	15.0	50.1	13.9	2.63	329	90	325

4. 断層諸元

- 前回想定の③見島北方沖西部断層は、長期評価の対馬海盆南方断層(26)が位置が近く対応している。
- 対馬海盆南方断層は総延長43km(M7.6)程度以上であり、③見島北方沖西部断層の総延長38km(M7.5)を上回り、かつ山口県から近いため、想定地震候補を③見島北方沖西部断層から対馬海盆南方断層(26)に変更する必要があると考える。



前回想定の諸元

断層名	地震の規模		断層の位置			断層の大きさ			断層の向き		
	M	Mw	緯度(°)	経度(°)	上縁深さ(km)	長さL(kmm)	幅W(km)	すべり量D(m)	走向θ(°)	傾斜角δ(°)	すべり角λ(°)
①見島付近西部断層	7.5	7.16	34.8941	130.9834	0	40	15	1.93	237.2	90	90
②神田岬沖断層	7.5	7.16	34.2547	130.9001	0	40	15.2	1.28	310	90	90
③見島北方沖西部断層	7.5	7.13	35.6131	130.6081	0	38	15	3.2	73.5	90	90
④佐渡島北方沖の地震	8.4	7.85	38.95258	138.40982	0	131.1	17.3	9.44	20	60	90

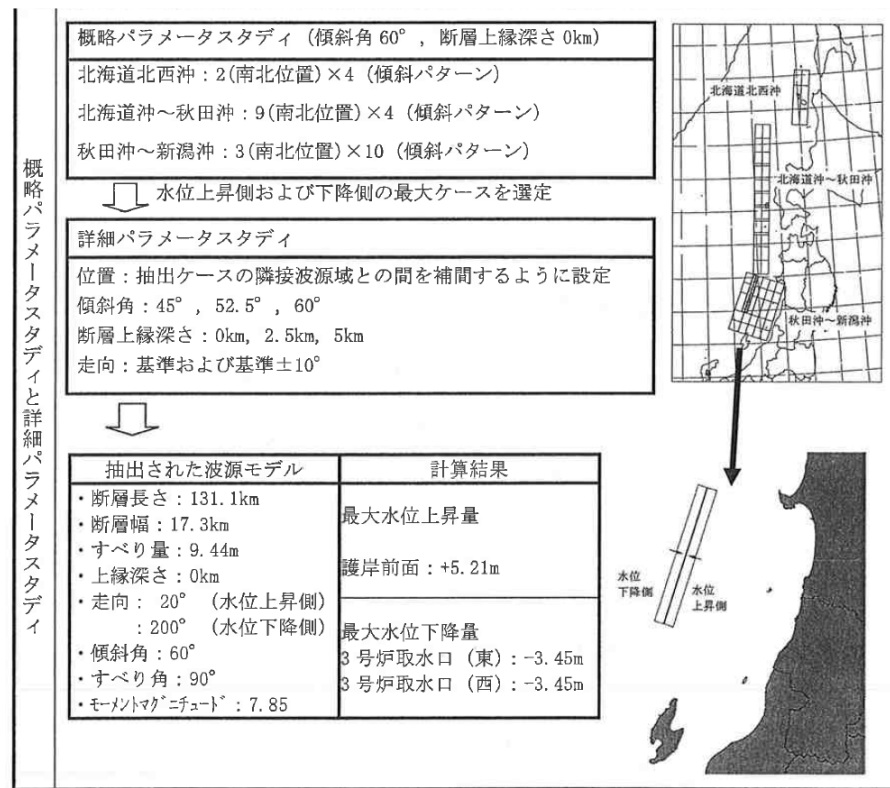
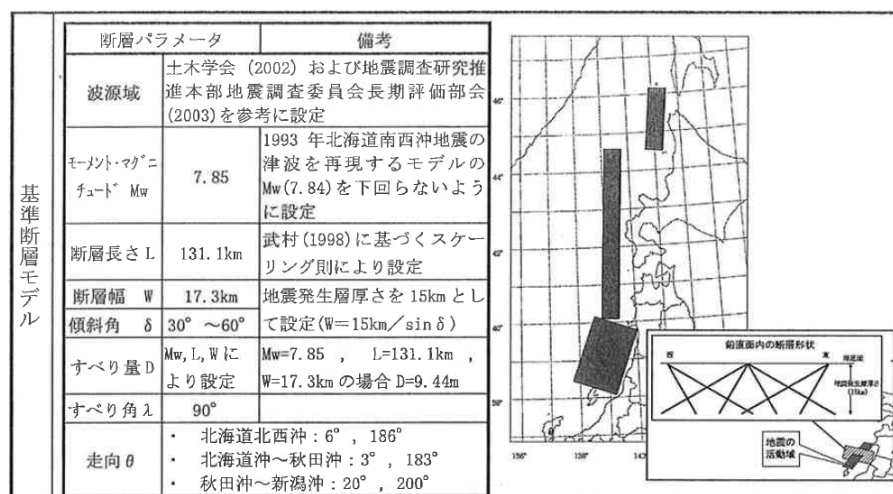
長期評価の諸元

活断層のくくり	評価単位区間	断層長(km)	信頼度	各区間単独活動の場合の地震規模(M)	ずれの向きと種類		信頼度	断層面の傾斜方向	信頼度	断層面の幅	基準面の垂直変位量(sec)	信頼度	1回のずれ量
					断層の走向	種類							
対馬海盆南方断層		43以上	△	7.6程度以上	N82° E	右横ずれ	△	南傾斜高角	○	17km程度	0.02	▲	4m程度以上

想定地震候補と長期評価の重ね合わせ

4. 断層諸元

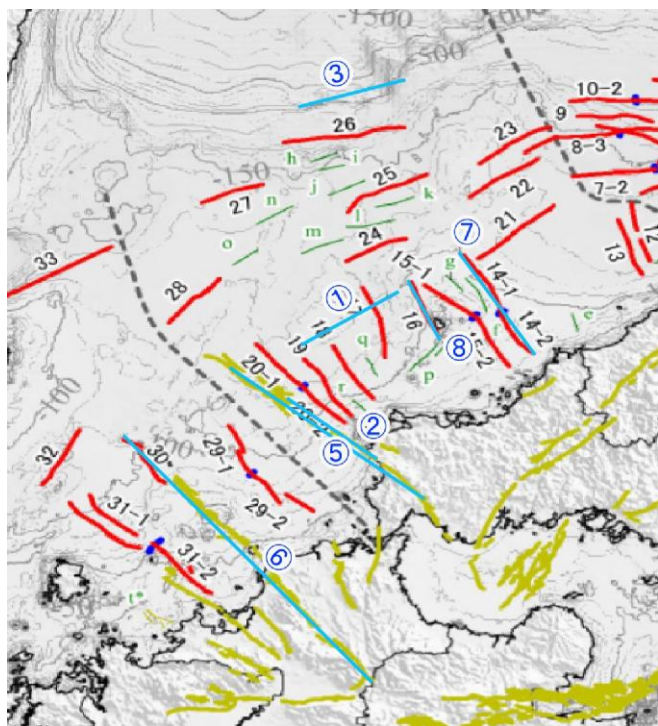
- 前回想定の④佐渡島北方沖の地震は、中国電力が島根原子力発電所3号機の耐震安全性評価(2011.1)の際に、「日本海東縁部の地震活動の長期評価」(地震本部、2003.6)等を参考に、1993年北海道南西沖地震の津波を再現するモデルのMw7.84を下回らないように設定した断層モデルを使用している。
- ④佐渡島北方沖の地震を含む日本海東縁部の長期評価については、2003年当時より変更がないため、被害想定における諸元について変更の必要はないと考える。



※出典: 島根原子力発電所3号機「発電用原子炉施設に関する耐震設計指針」の改定に伴う耐震安全性評価結果 報告書(中国電力、2011年1月)

4. 断層諸元

- 前回想定の⑤F59断層は、長期評価の角島沖西断層帯(20-1及び20-2)が位置が近く対応している。
- 角島沖西断層帯の総延長は46km(M7.6)程度であり、一方、⑤F59断層の総延長は87.9km(M8.1)以下であり、角島沖西断層帯を新たな想定地震候補として考慮する必要はないと考える。



前回想定の諸元

断層名	地震の規模		断層の位置				断層の大きさ			断層の向き		
	M	Mw	緯度(°)	経度(°)	上端深さ(km, TP-)	下端深さ(km, TP-)	長さL(km)	幅W(km)	すべり量D(m)	走向θ(°)	傾斜角δ(°)	すべり角λ(°)
⑤F59	8.1	7.38	34.1000	131.0833	1.1	15.0	87.9	13.9	3.49	310	90	325
⑥F60	8.4	7.59	33.3933	130.8816	1.0	15.0	136.9	14.0	4.60	321	90	325
⑦F58	7.7	7.13	34.6586	131.5104	1.1	15.0	50.1	13.9	2.63	329	90	325

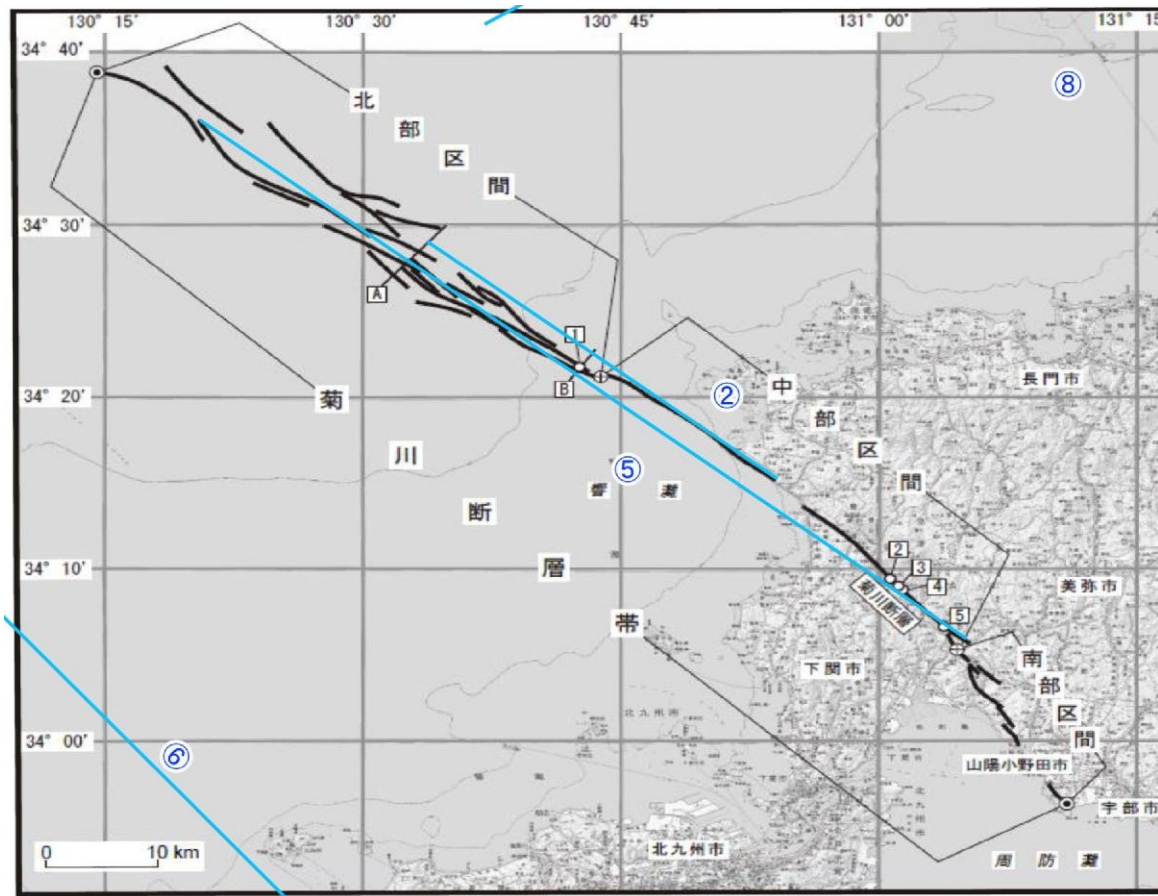
長期評価の諸元

活断層のくくり	評価単位区間	断層長(km)	信頼度	各区間単独活動の場合の地震規模(M)	ずれの向きと種類		信頼度	断層面の傾斜方向	信頼度	断層面の幅	基準面の垂直変位量(sec)	信頼度	1回のずれ量
					断層の走向	種類							
角島沖西断層帯	北部	25	○	7.2程度	S42° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15km程度	0.02	△	3m程度
	南部	21以上	△	7.0程度以上	S46° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15km程度	0.03	△	2m程度以上
	全体	46以上	△	7.6程度以上									

想定地震候補と長期評価の重ね合わせ

【参考】

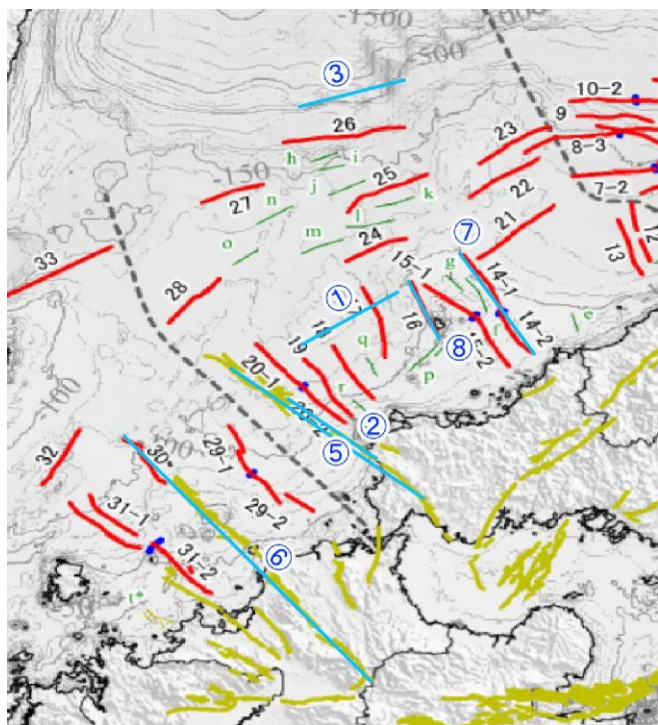
- 前回想定の⑤F59断層と、菊川断層の長期評価と重ね合わせて以下に示す。
- 長期評価での北部区間と中部区間の総延長は、96km(=53+43)(M8.1)であり、⑤F59断層の総延長87.9km(M8.1)を上回る。



想定地震候補と長期評価の重ね合わせ

4. 断層諸元

- 前回想定の⑥F60断層は、長期評価の沖ノ島近海断層(30)が位置が近く対応している。
- 沖ノ島近海断層は総延長24km(M7.1)程度であり、今後の調査研究で西山断層帯を構成する区間になる可能性もあり、その場合には西山断層帯の全体の長さは現在評価されている110kmよりさらに長くなるとされている。しかしながら、前回想定の⑥F60断層は、西山断層帯と沖ノ島近海断層を合わせて一つの断層モデル(136.9km、M8.4)としていることから、沖ノ島近海断層を新たな想定地震候補として考慮する必要はないと考える。



想定地震候補と長期評価の重ね合わせ

前回想定の諸元

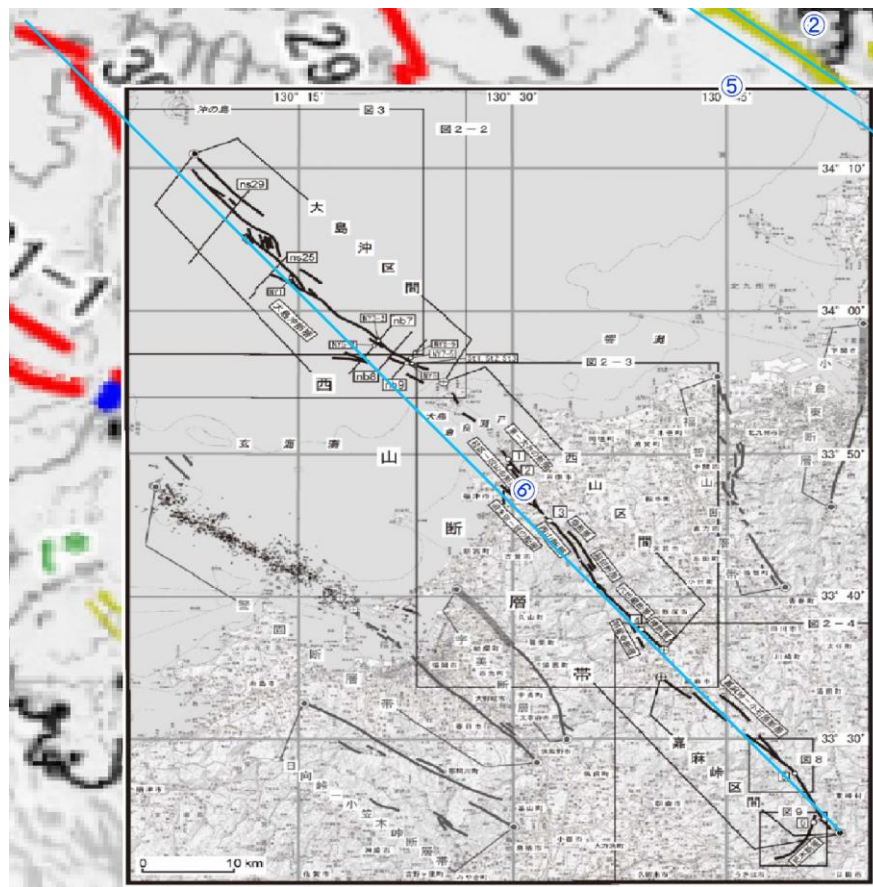
断層名	地震の規模		断層の位置				断層の大きさ			断層の向き		
	M	Mw	緯度 (°)	経度 (°)	上端深さ (km, TP-)	下端深さ (km, TP-)	長さ L (km)	幅 W (km)	すべり量 D (m)	走向 θ (°)	傾斜角 δ (°)	すべり角 λ (°)
⑤F59	8.1	7.38	34.1000	131.0833	1.1	15.0	87.9	13.9	3.49	310	90	325
⑥F60	8.4	7.59	33.3933	130.8816	1.0	15.0	136.9	14.0	4.60	321	90	325
⑦F58	7.7	7.13	34.6586	131.5104	1.1	15.0	50.1	13.9	2.63	329	90	325

長期評価の諸元

活断層のくくり	評価 単位 区間	断層長 (km)	信 頼 度	各区間単独 活動の場合の 地震規模 (M)	ずれの向きと種類		信 頼 度	断層面の 傾斜方向	信 頼 度	断層面 の幅	基準面の 垂直 変位量 (sec)	信 頼 度	1回の ずれ量
					断層の 走向	種類							
沖ノ島近海断層		24	○	7.1程度	S40° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.02	▲	2m程度

【参考】

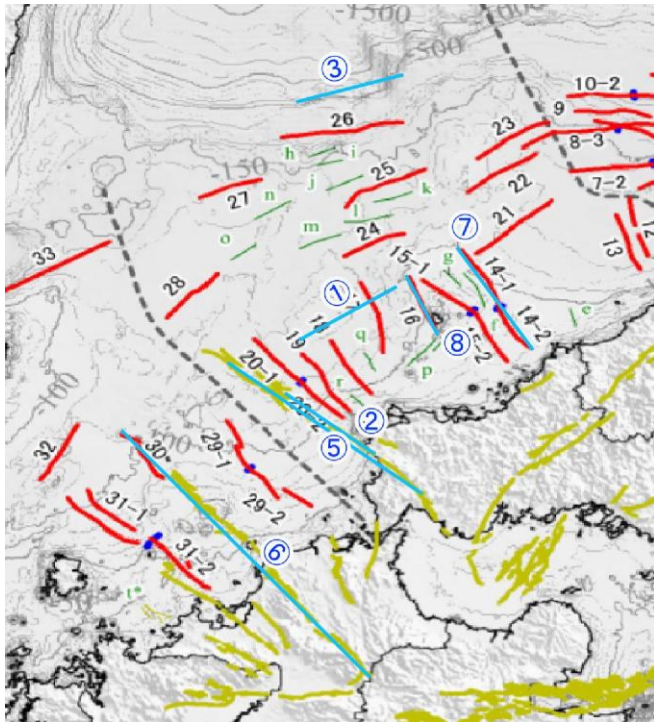
- 前回想定の⑥F60断層と、西山断層帯の長期評価と重ね合わせて以下に示す。
- 長期評価での大島沖区間と西山区間と嘉麻峠区間の総延長は、 $110\text{km}(=38+43+29)(M8.2)$ であり、⑥F60断層の総延長 $136.9\text{km}(M8.4)$ を下回る。



想定地震候補と長期評価の重ね合わせ

4. 断層諸元

- 前回想定の⑦F58断層は、長期評価の須佐冲断層帯(14-1及び14-2)及びモドロ岬冲断層帯(15-1及び15-2)が位置が近く対応している。
- 須佐冲断層帯は総延長49km(M7.7)程度、モドロ岬冲断層帯は総延長45km(M7.6)程度であり、⑦F58断層の総延長50.1km(M7.7)と同程度またはそれ以下であり、須佐冲断層帯及びモドロ岬冲断層帯を新たな想定地震候補として考慮する必要はないと考える。



前回想定の諸元

断層名	地震の規模		断層の位置				断層の大きさ			断層の向き		
	M	M _w	緯度(°)	経度(°)	上端深さ(km, TP-)	下端深さ(km, TP-)	長さL(km)	幅W(km)	すべり量D(m)	走向θ(°)	傾斜角δ(°)	すべり角λ(°)
⑤F59	8.1	7.38	34.1000	131.0833	1.1	15.0	87.9	13.9	3.49	310	90	325
⑥F60	8.4	7.59	33.3933	130.8816	1.0	15.0	136.9	14.0	4.60	321	90	325
⑦F58	7.7	7.13	34.6586	131.5104	1.1	15.0	50.1	13.9	2.63	329	90	325

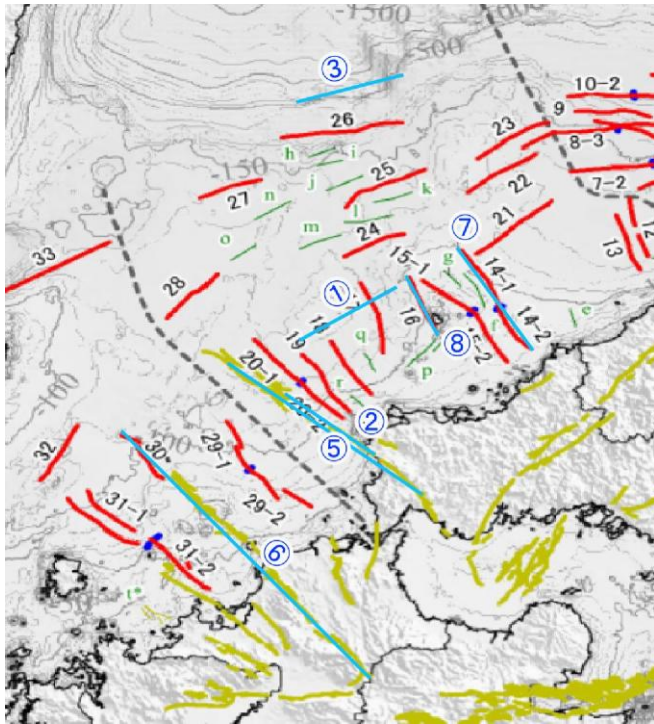
長期評価の諸元

活断層のくくり	評価単位区間	断層長(km)	信頼度	各区間単独活動の場合の地震規模(M)	ずれの向きと種類		信頼度	断層面の傾斜方向	信頼度	断層面の幅	基準面の垂直変位量(sec)	信頼度	1回のずれ量
					断層の走向	種類							
須佐冲断層帯	北部	29	○	7.3程度	S28° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15km程度	0.01	△	3m程度
	南部	20	○	7.0程度	S33° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.02	△	2m程度
	全体	49	○	7.7程度									
モドロ岬冲断層帯	北部	21	○	7.0程度	S52° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	○	15km程度	不明	—	2m程度
	南部	25以上	△	7.2程度以上	S34° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.01	△	3m程度以上
	全体	45以上	△	7.6程度以上									

想定地震候補と長期評価の重ね合わせ

4. 断層諸元

- 新規の想定地震候補の⑧見島西縁断層は、長期評価の見島近海断層(16)が位置が近く対応している。
- 見島近海断層は総延長22km(M7.1)程度であり、⑧見島西縁断層の総延長27km(M7.2)以下であり、見島近海断層を新たな想定地震候補として考慮する必要はないと考える。
- 上記以外の活断層についても、想定地震候補の長さや規模を上回るものはないため、新たな想定地震候補として考慮する必要はないと考える。



長期評価の諸元

活断層のくくり	評価 単位 区間	断層長 (km)	信頼 度	各区間単独 活動の場合の 地震規模 (M)	ずれの向きと種類		信頼 度	断層面の 傾斜方向	信頼 度	断層面 の幅	基準面の 垂直 変位量 (sec)	信頼 度	1回の ずれ量
					断層の 走向	種類							
見島近海断層		22	○	7.1程度	S24° E	左横ずれ	○	ほぼ垂直	△	15km程度	0.03	△	2m程度

想定地震候補と長期評価の重ね合わせ